

科目名称	基礎英語 I A①③⑤⑦			授業コード	10106022
担当教員	秋宗 英生				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	必修、外国語／必修、コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能（listening, speaking, reading, writing）を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit 1: What's your major? (1) Warm-Up ~ Grammar 3：Unit 1: What's your major? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4：Unit 2: How do you like your new school? (1) Warm-Up ~ Grammar 5：Unit 2: How do you like your new school? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (1) Warm-Up ~ Grammar 7：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8：Unit 4: How was your Golden Week? (1) Warm-Up ~ Grammar 9：Unit 4: How was your Golden Week? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (1) Warm-Up ~ Grammar 11：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12：Unit 6: What do you call this in Japanese? (1) Warm-Up ~ Grammar 13：Unit 6: What do you call this in Japanese? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14：Unit 7: Have you been there? (1) Warm-Up ~ Grammar 15：Unit 7: Have you been there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎授業相当日にオンラインで課題を出す。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。 なお使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、授業時間外学習の課題として使用する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
評価方法	・15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 ・Optionalの課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、e-learningでの得点を平常点に加味する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リンガポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ウィズダム（三省堂）・ジーニアス（大修館）等 ・PC・タブレット・スマートフォン（KDUポータル及びMicrosoft 365が利用可能な環境）				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必須である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用／英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各				

科目名称	基礎英語 I A②④⑥⑧		授業コード	10206022	
担当教員	上河 創				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	必修、外国語／必修、コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能（listening, speaking, reading, writing）を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit 1: What's your major? (1) Warm-Up ~ Grammar 3：Unit 1: What's your major? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4：Unit 2: How do you like your new school? (1) Warm-Up ~ Grammar 5：Unit 2: How do you like your new school? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (1) Warm-Up ~ Grammar 7：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8：Unit 4: How was your Golden Week? (1) Warm-Up ~ Grammar 9：Unit 4: How was your Golden Week? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (1) Warm-Up ~ Grammar 11：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12：Unit 6: What do you call this in Japanese? (1) Warm-Up ~ Grammar 13：Unit 6: What do you call this in Japanese? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14：Unit 7: Have you been there? (1) Warm-Up ~ Grammar 15：Unit 7: Have you been there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎授業相当日にオンラインで課題を出す。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。 なお使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
評価方法	・15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 ・Optionalの課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、e-learningでの得点を平常点に加味する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リンガポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ウィズダム（三省堂）・ジーニアス（大修館）等 ・PC・タブレット・スマートフォン（KDUポータル及びMicrosoft 365が利用可能な環境）				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必須である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用／英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各				

科目名称	基礎英語 I A⑨⑩		授業コード	10906022	
担当教員	岡村 光浩				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	必修、外国語／必修、コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能（listening, speaking, reading, writing）を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit 1: What's your major? (1) Warm-Up ~ Grammar 3：Unit 1: What's your major? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4：Unit 2: How do you like your new school? (1) Warm-Up ~ Grammar 5：Unit 2: How do you like your new school? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (1) Warm-Up ~ Grammar 7：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8：Unit 4: How was your Golden Week? (1) Warm-Up ~ Grammar 9：Unit 4: How was your Golden Week? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (1) Warm-Up ~ Grammar 11：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12：Unit 6: What do you call this in Japanese? (1) Warm-Up ~ Grammar 13：Unit 6: What do you call this in Japanese? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14：Unit 7: Have you been there? (1) Warm-Up ~ Grammar 15：Unit 7: Have you been there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎授業相当日にオンラインで課題を出す。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。 なお使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
評価方法	・15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 ・Optionalの課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、e-learningでの得点を平常点に加味する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リンガポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ウィズダム（三省堂）・ジーニアス（大修館）等 ・PC・タブレット・スマートフォン（KDUポータル及びMicrosoft 365が利用可能な環境）				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必須である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用／英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各				

科目名称	基礎英語 I B①	授業コード	11206022
担当教員	ラッタ 政美		
単位数	1	授業形態	演習
年次	1	開講年度	2022
関連資格	教職	科目分類	外国語/コミュニケーション
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit1:Meeting People(1): Greeting People / Making Introductions 3：Unit1:Meeting People(2): Reviewing Simple Present Tense / Making Personal Profiles 4：Unit2:Time to Eat(1): Asking about a Meal / Talking about Eating Habits 5：Unit2:Time to Eat(2): Reviewing Simple Past Tense / Writing about Festivals 6：Unit3:Living withTechnology(1): Making Suggestions / Making and Responding to Invitations 7：Unit3:Living withTechnology(2): Reviewing Present Continual Tense / Using Internet Language 8：Unit4:Shopping for Clothes(1): Receiving Customers 9：Unit4:Shopping for Clothes(2): Reviewing Comparatives and Superlatives / Writing Clothing Reviews 10：Unit5:A Helping Hand at Home(1): Complaining about Machines / Asking for a Lower Price 11：Unit5:A Helping Hand at Home(2): Reviewing Possessive Nouns, Pronouns, Adjectives and Correlative Conjunctions / Making Flyers 12：Unit6:Going Places(1): Asking for and Giving Directions 13：Unit6:Going Places(2): Reviewing Modals / Writing Directions 14：Unit7:Not Feeling So Good(1): Making an Appointment 15：Unit7:Not Feeling So Good(2): Reviewing Linking and Causative Verbs / Writing Medical History
実務経験のある教員	
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等
実習費	
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合は「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。

科目名称	基礎英語 I B②		授業コード	11306022	
担当教員	栗原 典子				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit1:Meeting People(1): Greeting People / Making Introductions 3：Unit1:Meeting People(2): Reviewing Simple Present Tense / Making Personal Profiles 4：Unit2:Time to Eat(1): Asking about a Meal / Talking about Eating Habits 5：Unit2:Time to Eat(2): Reviewing Simple Past Tense / Writing about Festivals 6：Unit3:Living withTechnology(1): Making Suggestions / Making and Responding to Invitations 7：Unit3:Living withTechnology(2): Reviewing Present Continual Tense / Using Internet Language 8：Unit4:Shopping for Clothes(1): Receiving Customers 9：Unit4:Shopping for Clothes(2): Reviewing Comparatives and Superlatives / Writing Clothing Reviews 10：Unit5:A Helping Hand at Home(1): Complaining about Machines / Asking for a Lower Price 11：Unit5:A Helping Hand at Home(2): Reviewing Possessive Nouns, Pronouns, Adjectives and Correlative Conjunctions / Making Flyers 12：Unit6:Going Places(1): Asking for and Giving Directions 13：Unit6:Going Places(2): Reviewing Modals / Writing Directions 14：Unit7:Not Feeling So Good(1): Making an Appointment 15：Unit7:Not Feeling So Good(2): Reviewing Linking and Causative Verbs / Writing Medical History				
実務経験のある教員	英国、米国、日本での応用言語学及び英語教育法研究の経験を活かし、社会的文脈に即した英語使用能力並びに包括的なコミュニケーション能力の習得を目指す。				
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。				
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。				
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。				
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合は「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語 I B③④⑤		授業コード	11406022	
担当教員	アラル・ケンザ宝				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit1:Meeting People(1): Greeting People / Making Introductions 3：Unit1:Meeting People(2): Reviewing Simple Present Tense / Making Personal Profiles 4：Unit2:Time to Eat(1): Asking about a Meal / Talking about Eating Habits 5：Unit2:Time to Eat(2): Reviewing Simple Past Tense / Writing about Festivals 6：Unit3:Living withTechnology(1): Making Suggestions / Making and Responding to Invitations 7：Unit3:Living withTechnology(2): Reviewing Present Continual Tense / Using Internet Language 8：Unit4:Shopping for Clothes(1): Receiving Customers 9：Unit4:Shopping for Clothes(2): Reviewing Comparatives and Superlatives / Writing Clothing Reviews 10：Unit5:A Helping Hand at Home(1): Complaining about Machines / Asking for a Lower Price 11：Unit5:A Helping Hand at Home(2): Reviewing Possessive Nouns, Pronouns, Adjectives and Correlative Conjunctions / Making Flyers 12：Unit6:Going Places(1): Asking for and Giving Directions 13：Unit6:Going Places(2): Reviewing Modals / Writing Directions 14：Unit7:Not Feeling So Good(1): Making an Appointment 15：Unit7:Not Feeling So Good(2): Reviewing Linking and Causative Verbs / Writing Medical History				
実務経験のある教員	英国、米国、日本での応用言語学及び英語教育法研究の経験を活かし、社会的文脈に即した英語使用能力並びに包括的なコミュニケーション能力の習得を目指す。				
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。				
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。				
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。				
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合は「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語 I (C①)		授業コード	11906022	
担当教員	栗原 典子				
単位数	1	授業形態	演習	科目分類	外国語/コミュニケーション/リテラシー(語学)
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業(オンデマンド)				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標(学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要(内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1: オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2: Unit 1: Roommates (1): Describing Personal Quality / Asking about Problems 3: Unit 1: Roommates (2): Reviewing Simple Future Tense / Making Personal Profiles 4: Unit 2: Checking Out (1): Making Suggestiotns / Giving Warnings 5: Unit 2: Checking Out (2): Reviewing Adverbial Clauses / Writing Shopping Tips 6: Unit 3: Get in Shape (1): Discussing Health 7: Unit 3: Get in Shape (2): Reviewing Noun Clauses / Making Peranal Trainer Ad 8: Unit 4: Money Management (1): Describing Finantial Situation / Talking about Personal Budget 9: Unit 4: Money Management (2): Reviewing Negative Qestions / Applying for Scholarship 10: Unit 5: Close Ties (1): Expressing Surprise / Talking about Progress 11: Unit 5: Close Ties (2): Reviewing Tag Questions / Giving Advice 12: Unit 6: Time to Celebrate (1): Making and Respoding to Invitations 13: Unit 6: Time to Celebrate (2): Reviewing Relative Clauses / Making Festival Flyers 14: Unit 7: Animals in Danger (1): Being Frank and Joking / Showing Understanding 15: Unit 7: Animals in Danger (2): Reviewing Simple Past Tense vs. Present Perfect Tense / Making Charity Flyer				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。				
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。				
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。				
使用テキスト	NEW CONNECTION Book2 成美堂 2018年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	英和/和英辞典: コンパスローズ(研究社)・ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)等				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IC・IIC で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。課題が未提出の場合は、「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語 I (C2)		授業コード	11806022	
担当教員	小橋 薫				
単位数	1	授業形態	演習	科目分類	外国語/コミュニケーション/リテラシー(語学)
年次	1	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	遠隔授業(オンデマンド)				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロフィール				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標(学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要(内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1: オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2: Unit 1: Roommates (1): Describing Personal Quality / Asking about Problems 3: Unit 1: Roommates (2): Reviewing Simple Future Tense / Making Personal Profiles 4: Unit 2: Checking Out (1): Making Suggestiotns / Giving Warnings 5: Unit 2: Checking Out (2): Reviewing Adverbial Clauses / Writing Shopping Tips 6: Unit 3: Get in Shape (1): Discussing Health 7: Unit 3: Get in Shape (2): Reviewing Noun Clauses / Making Peranal Trainer Ad 8: Unit 4: Money Management (1): Describing Finantial Situation / Talking about Personal Budget 9: Unit 4: Money Management (2): Reviewing Negative Qestions / Applying for Scholarship 10: Unit 5: Close Ties (1): Expressing Surprise / Talking about Progress 11: Unit 5: Close Ties (2): Reviewing Tag Questions / Giving Advice 12: Unit 6: Time to Celebrate (1): Making and Respoding to Invitations 13: Unit 6: Time to Celebrate (2): Reviewing Relative Clauses / Making Festival Flyers 14: Unit 7: Animals in Danger (1): Being Frank and Joking / Showing Understanding 15: Unit 7: Animals in Danger (2): Reviewing Simple Past Tense vs. Present Perfect Tense / Making Charity Flyer				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。				
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。				
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。				
使用テキスト	NEW CONNECTION Book2 成美堂 2018年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	英和/和英辞典: コンパスローズ(研究社)・ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)等				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IC・IIC で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。課題が未提出の場合は、「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語 I A R		授業コード	20106022	
担当教員	岡村 光浩				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	必修、外国語／必修、コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能（listening, speaking, reading, writing）を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit 1: What's your major? (1) Warm-Up ~ Grammar 3：Unit 1: What's your major? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4：Unit 2: How do you like your new school? (1) Warm-Up ~ Grammar 5：Unit 2: How do you like your new school? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (1) Warm-Up ~ Grammar 7：Unit 3: Let me introduce a new member to you. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8：Unit 4: How was your Golden Week? (1) Warm-Up ~ Grammar 9：Unit 4: How was your Golden Week? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (1) Warm-Up ~ Grammar 11：Unit 5: I'm looking for a part-time job. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12：Unit 6: What do you call this in Japanese? (1) Warm-Up ~ Grammar 13：Unit 6: What do you call this in Japanese? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14：Unit 7: Have you been there? (1) Warm-Up ~ Grammar 15：Unit 7: Have you been there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	毎授業相当日にオンラインで課題を出す。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。 なお使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
評価方法	・15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 ・Optionalの課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リンガポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、e-learningでの得点を平常点に加味する場合があります（使用する場合は授業時に担当講師より指示する）。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リンガポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ウィズダム（三省堂）・ジーニアス（大修館）等 ・PC・タブレット・スマートフォン（KDUポータル及びMicrosoft 365が利用可能な環境）				
実習費					
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必須である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用／英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各				

科目名称	基礎英語 I BR	授業コード	20206022
担当教員	アラル・ケンザ宝		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
関連資格	教職	科目分類	外国語/コミュニケーション
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit1:Meeting People(1): Greeting People / Making Introductions 3：Unit1:Meeting People(2): Reviewing Simple Present Tense / Making Personal Profiles 4：Unit2:Time to Eat(1): Asking about a Meal / Talking about Eating Habits 5：Unit2:Time to Eat(2): Reviewing Simple Past Tense / Writing about Festivals 6：Unit3:Living withTechnology(1): Making Suggestions / Making and Responding to Invitations 7：Unit3:Living withTechnology(2): Reviewing Present Continual Tense / Using Internet Language 8：Unit4:Shopping for Clothes(1): Receiving Customers 9：Unit4:Shopping for Clothes(2): Reviewing Comparatives and Superlatives / Writing Clothing Reviews 10：Unit5:A Helping Hand at Home(1): Complaining about Machines / Asking for a Lower Price 11：Unit5:A Helping Hand at Home(2): Reviewing Possessive Nouns, Pronouns, Adjectives and Correlative Conjunctions / Making Flyers 12：Unit6:Going Places(1): Asking for and Giving Directions 13：Unit6:Going Places(2): Reviewing Modals / Writing Directions 14：Unit7:Not Feeling So Good(1): Making an Appointment 15：Unit7:Not Feeling So Good(2): Reviewing Linking and Causative Verbs / Writing Medical History
実務経験のある教員	英国、米国、日本での応用言語学及び英語教育法研究の経験を活かし、社会的文脈に即した英語使用能力並びに包括的なコミュニケーション能力の習得を目指す。
授業時間外学習	毎回テキスト、オンライン、補助教材で予習・復習する課題がある。
評価方法	1. 15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。 2. Optionalの課題がある場合は加点する。
指導方法	1. 提出された課題は採点され、KDUポータルで個別に公開する。必要ならコメントを書く場合があるので、確認しておくこと。 2. 提出期限の翌日、解答と解説を補助資料として公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等
実習費	
その他	1. 基礎英語 I は必修科目である。また基礎英語 II の履修には基礎英語 I の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合は「欠席」とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。

科目名称	基礎英語Ⅱ A①③⑤⑦		授業コード	20106221	
担当教員	秋宗 英生				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要 (内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能 (listening, speaking, reading, writing) を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2 : Unit 8: Could you tell me how to get there? (1) Warm-Up ~ Grammar 3 : Unit 8: Could you tell me how to get there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4 : Unit 9: What do you want me to do? (1) Warm-Up ~ Grammar 5 : Unit 9: What do you want me to do? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6 : Unit 10: I'm on a tight budget. (1) Warm-Up ~ Grammar 7 : Unit 10: I'm on a tight budget. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8 : Unit 11: What do you think of this program? (1) Warm-Up ~ Grammar 9 : Unit 11: What do you think of this program? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10 : Unit 12: I'm reviewing what I studied. (1) Warm-Up ~ Grammar 11 : Unit 12: I'm reviewing what I studied. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12 : Unit 13: Final exam week is so stressful! (1) Warm-Up ~ Grammar 13 : Unit 13: Final exam week is so stressful! (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14 : Unit 14: Is this your first trip abroad? (1) Warm-Up ~ Grammar 15 : Unit 14: Is this your first trip abroad? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業時に担当講師より指示する。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 なお使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、授業時間外学習の課題として使用する場合がある (使用する場合は授業時に担当講師より指示する)。				
評価方法	・授業で課される課題の平均点を 100%評価の対象とする。 ・Optional の課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、e-learning での得点を平常点に加味する場合がある (使用する場合は授業時に担当講師より指示する)。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リングポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper 『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019 年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館) 等 ・PC・タブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft 365 が利用可能な環境)				
実習費					
その他	1. 基礎英語 II の履修には基礎英語 I (必修) の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則 4 回まで (予備登録期間含む)。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用 / 英語による / 英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語Ⅱ A2④⑥⑧		授業コード	20206221	
担当教員	上河 創				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。				
授業の概要 (内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能 (listening, speaking, reading, writing) を通してコミュニケーションに応用していく。				
授業計画	1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2 : Unit 8: Could you tell me how to get there? (1) Warm-Up ~ Grammar 3 : Unit 8: Could you tell me how to get there? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 4 : Unit 9: What do you want me to do? (1) Warm-Up ~ Grammar 5 : Unit 9: What do you want me to do? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 6 : Unit 10: I'm on a tight budget. (1) Warm-Up ~ Grammar 7 : Unit 10: I'm on a tight budget. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 8 : Unit 11: What do you think of this program? (1) Warm-Up ~ Grammar 9 : Unit 11: What do you think of this program? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 10 : Unit 12: I'm reviewing what I studied. (1) Warm-Up ~ Grammar 11 : Unit 12: I'm reviewing what I studied. (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 12 : Unit 13: Final exam week is so stressful! (1) Warm-Up ~ Grammar 13 : Unit 13: Final exam week is so stressful! (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write! 14 : Unit 14: Is this your first trip abroad? (1) Warm-Up ~ Grammar 15 : Unit 14: Is this your first trip abroad? (2) Let's Read! ~ Let's Read Aloud & Write!				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業時に担当講師より指示する。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 なお使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、授業時間外学習の課題として使用する場合がある (使用する場合は授業時に担当講師より指示する)。				
評価方法	・授業で課される課題の平均点を 100%評価の対象とする。 ・Optional の課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているため、e-learning での得点を平常点に加味する場合がある (使用する場合は授業時に担当講師より指示する)。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リングポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	角山照彦、Simon Capper 『Let's Read Aloud & Learn English: On Campus』成美堂、2019 年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和／和英辞典：コンパスローズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館) 等 ・PC・タブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft 365 が利用可能な環境)				
実習費					
その他	1. 基礎英語 II の履修には基礎英語 I (必修) の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IA・IIA で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則 4 回まで (予備登録期間含む)。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 5. 積極的な Global Cafe の利用 / 英語による / 英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	基礎英語Ⅱ B①③	授業コード	22106221
担当教員	ラッタ 政美		
単位数	1	授業形態	演習
年次	1	開講年度	2022
関連資格	教職	科目分類	外国語/コミュニケーション
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	対面
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要 (内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2 : Unit8:The Big Screen(1): Apologizing / Talking about Movies 3 : Unit8:The Big Screen(2): Reviewing Prepositions about Time / Writing Movie Reviews 4 : Unit9:How Do you Feel?(1): Asking about Someone's Feeling / Talking to People with Different Feelings 5 : Unit9:How Do you Feel?(2): Reviewing Participial Adjectives / Writing Life Stories 6 : Unit10:All in Good Fun(1): Talking about Likes and Dislikes / Asking for and Giving Opinions 7 : Unit10:All in Good Fun(2): Reviewing Gerunds and Infinitives / Writing about Pastime 8 : Unit11:GameTime(1): Talking about Injuries / Listing Requirements 9 : Unit11:GameTime(2): Reviewing Past Continuous Tense / Writing about Favorite Sports 10 : Unit12:Rain or Shine(1): Describing Weather Conditions 11 : Unit12:Rain or Shine(2): Reviewing Simple future Tense / Writing Sportm Warnings 12 : Unit13:Eating out(1): Ordering a Meal 13 : Unit13:Eating out(2): Reviewing Indefinite Pronouns / Writing Restarurant Reviews 14 : Unit14:School Life(1): Discussing Problems / Stating your Goals 15 : Unit14:School Life(2): Reviewing Present Perfect Tense / Writing Job Applications
実務経験のある教員	
授業時間外学習	毎授業後にオンラインで課題を出す。
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点とリアルタイム授業の進行に関する発言・発表などの積極性や貢献度を合わせて評価の対象とする。
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを KDU ポータルで公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和/和英辞典: コンパスローズ(研究社)・ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)等
実習費	
その他	1. 基礎英語 II の履修には基礎英語 I (必修) の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進捗等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。課題が未提出の場合、「欠席」とする。 5. 積極的な GlobalCafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。

科目名称	基礎英語Ⅱ B②④	授業コード	22206221
担当教員	岡村 光浩		
単位数	1	授業形態	演習
年次	1	開講年度	2022
関連資格	教職	科目分類	外国語／コミュニケーション
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要 (内容)	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	<p>1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他)</p> <p>2 : Unit8:The Big Screen(1): Apologizing / Talking about Movies</p> <p>3 : Unit8:The Big Screen(2): Reviewing Prepositions about Time / Writing Movie Reviews</p> <p>4 : Unit9:How Do you Feel?(1): Asking about Someone's Feeling / Talking to People with Different Feelings</p> <p>5 : Unit9:How Do you Feel?(2): Reviewing Participial Adjectives / Writing Life Stories</p> <p>6 : Unit10:All in Good Fun(1): Talking about Likes and Dislikes / Asking for and Giving Opinions</p> <p>7 : Unit10:All in Good Fun(2): Reviewing Gerunds and Infinitives / Writing about Pastime</p> <p>8 : Unit11:GameTime(1): Talking about Injuries / Listing Requirements</p> <p>9 : Unit11:GameTime(2): Reviewing Past Continuous Tense / Writing about Favorite Sports</p> <p>10 : Unit12:Rain or Shine(1): Describing Weather Conditions</p> <p>11 : Unit12:Rain or Shine(2): Reviewing Simple future Tense / Writing Sportm Warnings</p> <p>12 : Unit13:Eating out(1): Ordering a Meal</p> <p>13 : Unit13:Eating out(2): Reviewing Indefinite Pronouns / Writing Restarurant Reviews</p> <p>14 : Unit14:School Life(1): Discussing Problems / Stating your Goals</p> <p>15 : Unit14:School Life(2): Reviewing Present Perfect Tense / Writing Job Applications</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	毎授業後にオンラインで課題を出す。
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点とリアルタイム授業の進行に関する発言・発表などの積極性や貢献度を合わせて評価の対象とする。
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを KDU ポータルで公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018 年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ(研究社)・ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)等
実習費	
その他	<p>1. 基礎英語 II の履修には基礎英語 I (必修) の単位取得が必要である。</p> <p>2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。</p> <p>3. 授業内容についてはクラス毎の進捗等により調整する場合がある。</p> <p>4. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。課題が未提出の場合、「欠席」とする。</p> <p>5. 積極的な GlobalCafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。</p> <p>6. その他詳細は各担当講師より指示する。</p>

科目名称	基礎英語Ⅱ B⑤		授業コード	22506221	
担当教員	アラル・ケンザ宝				
単位数	1	授業形態	演習	科目分類	外国語
年次	1	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格	教職				

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	1：オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2：Unit8:The Big Screen(1): Apologizing / Talking about Movies 3：Unit8:The Big Screen(2): Reviewing Prepositions about Time / Writing Movie Reviews 4：Unit9:How Do you Feel?(1): Asking about Someone's Feeling / Talking to People with Different Feelings 5：Unit9:How Do you Feel?(2): Reviewing Participial Adjectives / Writing Life Stories 6：Unit10:All in Good Fun(1): Talking about Likes and Dislikes / Asking for and Giving Opinions 7：Unit10:All in Good Fun(2): Reviewing Gerunds and Infinitives / Writing about Pastime 8：Unit11:GameTime(1): Talking about Injuries / Listing Requirements 9：Unit11:GameTime(2): Reviewing Past Continuous Tense / Writing about Favorite Sports 10：Unit12:Rain or Shine(1): Describing Weather Conditions 11：Unit12:Rain or Shine(2): Reviewing Simple future Tense / Writing Sportm Warnings 12：Unit13:Eating out(1): Ordering a Meal 13：Unit13:Eating out(2): Reviewing Indefinite Pronouns / Writing Restarurant Reviews 14：Unit14:School Life(1): Discussing Problems / Stating your Goals 15：Unit14:School Life(2): Reviewing Present Perfect Tense / Writing Job Applications
実務経験のある教員	
授業時間外学習	毎授業後にオンラインで課題を出す。
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点とリアルタイム授業の進行に関する発言・発表などの積極性や貢献度を合わせて評価の対象とする。
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを KDU ポータルで公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book1 成美堂 2018 年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等
実習費	
その他	1. 基礎英語 II の履修には基礎英語 I（必修）の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語 IB・IIB で同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合、「欠席」とする。 5. 積極的な GlobalCafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。

科目名称	基礎英語Ⅱ C	授業コード	23106221
担当教員	小橋 薫		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
関連資格	教職	科目分類	外国語／コミュニケーション
		開講学期	後期

対面・遠隔の別	遠隔（オンデマンド）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語による基本的なコミュニケーションに必要な語彙、文法知識を習得し、listening, speaking, reading, writing の4技能の向上を目指す。
授業の概要（内容）	各ユニットが扱うトピックに必要な語彙と文法項目を学び、それらを4技能(listening, speaking, reading, writing)を通してコミュニケーションに応用していく。
授業計画	1: オリエンテーション（授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他） 2: Unit 8: A Fine Art (1): Talking about Natural Talents 3: Unit 8: A Fine Art (2): Reviewing Conditionals / Writing about Art Advice 4: Unit 9: Tune In (1): Talking about How to Relax 5: Unit 9: Tune In (2): Reviewing Present Perfect Continuous / Writing about TV Habits 6: Unit 10: Music to Orr Ears (1): Dsicussing Success / Talking about Influence 7: : Unit 10: Music to Orr Ears (2): Reveiwing Relative Clauses / Writing Band Flyers 8: Unit 11: Study Abroad (1): Talking about Easy and Difficult Things / Expressing Worry 9: Unit 11: Study Abroad (2): Reviewing Relative Adverbs / Writing about Studying Abroad 10: Unit 12: Technology and You (1): Expressing Function /Discussing Technnology 11: Unit 12: Technology and You (2): Reviewing Reported Speech / Writing about Inventions 12: Unit 13: Right and Wrong (1): Sharing Information / Showing Anger 13: Unit 13: Right and Wrong (2): Reviewing Subject and Verb Agreement / Writing Moral Advice 14: Unit 14: Your Career Starts Now (1): Giving Encouragemnet / Discussing Possibility 15: Unit 14: Your Career Starts Now (2): Reviewing Infinitives / Writing Job Applications
実務経験のある教員	
授業時間外学習	毎授業相当日にオンラインで課題を出す。
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点を100%評価の対象とする。Optionalの課題がある場合は、加点する。加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントをKDUポータルで公開する。
使用テキスト	NEW CONNECTION Book2 成美堂 2018年
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）第4版』CambridgeUP, その他各担当講師より指示する。
各自準備物	英和／和英辞典：コンパスローズ（研究社）・ジーニアス（大修館）・ウィズダム（三省堂）等
実習費	
その他	1. 基礎英語Ⅱの履修には基礎英語Ⅰ（必修）の単位取得が必要である。 2. テキストは基礎英語ⅠC・ⅠICで同じものを継続使用する。 3. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 4. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。課題が未提出の場合、「欠席」とする。 5. 積極的なGlobalCafeの利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 6. その他詳細は各担当講師より指示する。

科目名称	英語コミュニケーション A ①②		授業コード	10106044	
担当教員	ラッタ 政美				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	外国語/コミュニケーション/リテラシー (語学)
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロファイル、Zoom				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	<p>海外生活での具体的な場面を想定した授業で、日常生活の様々な場面における英語の語彙、表現を身につけることで、英語によるコミュニケーション運用に慣れ親しみ、即座に英語で発話・応答できる能力を育成する。また異文化への関心・理解が高まり、積極的に接するようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ)</p> <p>この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、慣用句、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を高める。ある特定の状況の中で必要な情報を得るという目的をもって学んだ会話表現を自然に使えるようにする。</p>				
授業の概要 (内容)	<p>学生たちは、オンデマンド型の授業で、会話独特の言い回しを学び、リアルタイム型授業では、ロールプレイ、タスク、シミュレーション、プレゼンテーションを通して何度も発話することで、学んだ表現を脳に定着させ、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。</p>				
授業計画	<p>1: Orientation (授業のねらい、授業中の注意点・取り組み方、テキストの内容、予習・復習の方法などを説明する。)</p> <p>2: Intercultural experience(1) (イースターについて学ぶ。)</p> <p>3: Self-introduction (ホストファミリーに自己紹介する。)</p> <p>4: Solving a communication gap(1) (相手の英語が聞き取れなかった時、その解決方法・表現を学ぶ。)</p> <p>5: Solving a communication gap(2) (Immigration, Customs でのやりとりをシミュレーションする。)</p> <p>6: Getting to know each other: (お互いの情報を交換する。また第三者にクラスメートを紹介する。)</p> <p>7: Dealing with numbers (銀行口座を開く設定で英語の数字に慣れ、適切に数字を使えるようにする。)</p> <p>8: How often? (自分の日課を頻度の表現を使って説明する。)</p> <p>9: Talking about health concerns (病気の表現を学び、症状を英語で説明できるようにする。)</p> <p>10: Describing locations (英語の地図上のいろいろな建物の名前と位置関係を学ぶ。)</p> <p>11: Asking & giving directions(1) (簡単な地図を使って英語の道案内を聞き取る、また道案内をする。)</p> <p>12: Asking & giving directions(2) (複雑な地図を使って英語の道案内を聞き取る、また道案内をする。)</p> <p>13: Shopping(1) (単数アイテムのショッピングをシミュレーションする。)</p> <p>14: Shopping(2) (複数アイテムのショッピングをシミュレーションする。)</p> <p>15: Review (与えられた状況で英語の会話を作り、ロールプレイで発表する。)</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題を1週間前に出すので必ずやっておくこと。授業は課題が完成していることを前提に行う。				
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点(60%)とリアルタイム授業の進行に関する発言・発表などの積極性や貢献度(40%)を合わせて評価の対象とする。				
指導方法	課題は採点し、解答・解説を公開する。トピックに関するレポートその他、提出された課題については、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	教員が作成した教材を配布する。				
参考テキスト・URL	授業内で随時紹介する。				
各自準備物	授業中特別な場合を除き辞書はいつでも使えるので、電子辞書を用意するように。				
実習費					
その他	<p>1. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。</p> <p>2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。</p> <p>3. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。</p> <p>4. その他詳細は担当講師より指示する。</p> <p>5. 「基礎英語 I」の A クラスを修了した学生の履修が望ましい。</p>				

科目名称	英語コミュニケーションA ③④⑧			授業コード	10306044
担当教員	MACAULEY MYLES				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、Zoom
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標 (学修成果)	海外生活での具体的な場面を想定した授業で、日常生活の様々な場面における英語の語彙、表現を身につけることで、英語によるコミュニケーション運用に慣れ親しみ、即座に英語で発話・応答できる能力を育成する。また異文化への関心・理解が高まり、積極的に接するようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ) この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、慣用句、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を高める。ある特定の状況の中で必要な情報を得るという目的をもって学んだ会話表現を自然に使えるようにする。
授業の概要 (内容)	日常生活の中でさまざまな場面において英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とします。 この授業では主に話す事と聞き取ることを中心とした活動を行って行きます。 実用的な英語コミュニケーションに役立つ表現と単語を身につけて行きます。
授業計画	1: Orientation. Getting to know each other; Classroom language 2: Talking about yourself; Interests and hobbies 3: Shopping for clothes; Fluency with money and prices 4: Recommending things to do and places to visit 5: In a restaurant; Talking about Japanese food 6: Talking about routines and frequency 7: Talking about experiences and places you have visited. Giving opinions 8: Talking about occupations and part-time jobs 9: Changes and contrasts: past, present and future 10: Accidents and minor injuries; Giving advice 11: Asking for and giving suggestions 12: Talking about manners and customs 13: Describing things. Reporting things lost 14: Talking about future plans 15: Review
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業後に学習内容を必ず復習し、語彙・表現を再確認すること。
評価方法	授業内ロールプレイ&スピーキング & 提出物 75% ; 授業内小テスト 25%
指導方法	
使用テキスト	教材は授業でプリントを配布します。
参考テキスト・URL	
各自準備物	辞書または電子辞書を持参すること
実習費	
その他	1. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。 3. 積極的なGlobal Cafeの利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は担当講師より指示する。 5. 「基礎英語I」のBまたはCクラスを修了した学生の履修が望ましい。

科目名称	英語コミュニケーションA ⑤⑦			授業コード	10606044
担当教員	安田 有紀子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	1) オンデマンドの場合、OneDrive 内に授業ビデオを入れます。 2) リアルタイムの場合、Zoom を利用して授業を行います。				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	海外生活での具体的な場面を想定した授業で、日常生活の様々な場面における英語の語彙、表現を身につけることで、英語によるコミュニケーション運用に慣れ親しみ、即座に英語で発話・応答できる能力を育成する。また異文化への関心・理解が高まり、積極的に接するようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ) この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、慣用句、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を高める。ある特定の状況の中で必要な情報を得るといった目的をもって学んだ会話表現を自然に使えるようにする。				
授業の概要（内容）	設定された場面が必要となる会話表現を何度も繰り返し発話練習することで、表現の定着を図る。また、自分のことについて様々な内容を話すことができるようになるために、ペアワーク、グループワークを用いて1~2分程度の簡単なプレゼンテーションを毎時授業初めに行う。				
授業計画	1: Orientation (授業の概要、成績評価、授業中の注意点等について説明する。教室英語を学ぶ) 2: Talking about yourself (自己紹介とスモールトークができるようにする。) 3: Getting to know each other (相手のことを知る表現・誘う表現を学ぶ。) 4: Solving a communication gap (聞き直しの表現を学ぶ。) 5: Shopping (1) (買い物で使う表現を学ぶ。) 6: Compliments (相手をほめる) 7: Showing interest (あいづちをうったり、相手に興味を示す。) 8: My favorite (自分の好みについて話す。) 9: Describing locations (位置関係を表す表現を学ぶ。) 10: Asking & giving directions (道案内の表現を学ぶ。) 11: Thanks & apologies (お礼や謝罪の表現を学ぶ。) 12: Complaints (苦情を伝える。) 13: Requests (丁寧に依頼する。) 14: Saying "no" (断り方の表現を学ぶ。) 15: Review (前期で学んだ表現の総復習及びロールプレイで発表する。)				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題を1週間前に出すので必ずやっておくこと。授業は課題が完成していることを前提に行う。				
評価方法	授業内評価: 50% (小テスト 30% + 復習テスト 20%) 授業外評価: 宿題・課題 50%				
指導方法	授業中に行う小テストは授業時間中に答え合わせをする。 提出された課題については、教員が確認した後日学生に返却する。				
使用テキスト	授業中にプリントを配布する。				
参考テキスト・URL	授業内で紹介する。				
各自準備物	電子辞書を持参すること。				
実習費					
その他	1. 授業内容についてはクラス毎の震度等により調整する場合がある。 2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。 3. 積極的なGlobal Cafeの利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は担当講師より指示する。				

科目名称	英語コミュニケーション A ⑥		授業コード	10506044	
担当教員	栗原 典子				
単位数	2	授業形態	演習	科目分類	外国語/コミュニケーション/リテラシー(語学)
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロフィール、Zoom				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標(学修成果)	<p>海外生活での具体的な場面を想定した授業で、日常生活の様々な場面における英語の語彙、表現を身につけることで、英語によるコミュニケーション運用に慣れ親しみ、即座に英語で発話・応答できる能力を育成する。また異文化への関心・理解が高まり、積極的に接するようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ)</p> <p>この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、慣用句、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を高める。ある特定の状況の中で必要な情報を得るという目的をもって学んだ会話表現を自然に使えるようにする。</p>				
授業の概要(内容)	<p>学生たちは、オンデマンド型の授業で、会話独特の言い回しを学び、リアルタイム型授業では、ロールプレイ、タスク、シミュレーション、プレゼンテーションを通して何度も発話することで、学んだ表現を脳に定着させ、意識せずに必要な表現が覚えられるようにする。</p>				
授業計画	<p>1: Orientation (授業のねらい、授業中の注意点・取り組み方、テキストの内容、予習・復習の方法などを説明する。)</p> <p>2: Intercultural experience(1) (イースターについて学ぶ。)</p> <p>3: Self-introduction (ホストファミリーに自己紹介する。)</p> <p>4: Solving a communication gap(1) (相手の英語が聞き取れなかった時、その解決方法・表現を学ぶ。)</p> <p>5: Solving a communication gap(2) (Immigration, Customs でのやりとりをシミュレーションする。)</p> <p>6: Getting to know each other: (お互いの情報を交換する。また第三者にクラスメートを紹介する。)</p> <p>7: Dealing with numbers (銀行口座を開く設定で英語の数字に慣れ、適切に数字を使えるようにする。)</p> <p>8: How often? (自分の日課を頻度の表現を使って説明する。)</p> <p>9: Talking about health concerns (病気の表現を学び、症状を英語で説明できるようにする。)</p> <p>10: Describing locations (英語の地図上のいろいろな建物の名前と位置関係を学ぶ。)</p> <p>11: Asking & giving directions(1) (簡単な地図を使って英語の道案内を聞き取る、また道案内をする。)</p> <p>12: Asking & giving directions(2) (複雑な地図を使って英語の道案内を聞き取る、また道案内をする。)</p> <p>13: Shopping(1) (単数アイテムのショッピングをシミュレーションする。)</p> <p>14: Shopping(2) (複数アイテムのショッピングをシミュレーションする。)</p> <p>15: Review (与えられた状況で英語の会話を作り、ロールプレイで発表する。)</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題を1週間前に出すので必ずやっておくこと。授業は課題が完成していることを前提に行う。				
評価方法	15回の授業で課される課題の平均点(60%)とリアルタイム授業の進行に関する発言・発表などの積極性や貢献度(40%)を合わせて評価の対象とする。				
指導方法	課題は採点し、解答・解説を公開する。トピックに関するレポートその他、提出された課題については、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	教員が作成した教材を配布する。				
参考テキスト・URL	授業内で随時紹介する。				
各自準備物	授業中特別な場合を除き辞書はいつでも使えるので、電子辞書を用意するように。				
実習費					
その他	<p>1. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。</p> <p>2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。</p> <p>3. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。</p> <p>4. その他詳細は担当講師より指示する。</p> <p>5. 「基礎英語 I」の A クラスを修了した学生の履修が望ましい。</p>				

科目名称	英語コミュニケーションB ①⑤		授業コード	10106045	
担当教員	安田 有紀子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	1) オンデマンドの場合、OneDrive 内に授業ビデオを入れます。 2) リアルタイムの場合、Zoom を利用して授業を行います。				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	海外生活での具体的な場面を想定した授業で、衣食住の様々な状況で適切な英会話ができるようになる。またその状況の中で必要な情報を得るためだけでなく、円滑なコミュニケーションを通じて、よりよい人間関係を作り上げることができる。さらに相互尊重の視点から、異文化と自国文化を比較できるようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ) この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、現地での生活において出会う可能性のある慣用語、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語コミュニケーション能力を高める。留学生活を通して出会うさまざまな人間関係の中で起こりうる場面を想定したトピックを取り上げ、それらの状況に応じた会話表現を使えるようにする。				
授業の概要（内容）	設定された場面で必要となる会話表現を何度も繰り返し発話練習することで、表現の定着を図る。また、自分のことについて様々な内容を話すことができるようになるために、ペアワーク、グループワークを用いて1~2分程度の簡単なプレゼンテーションを毎時授業初めに行う。				
授業計画	1: Orientation (授業の概要、成績評価、授業中の注意点等について説明する。教室英語を学ぶ) 2: Talking about yourself (自己紹介とスモールトークができるようにする。) 3: Scheduling (時間・曜日など日程を表す表現を学び、予定の調整をする。) 4: Planning a birthday party (1) (友人の誕生日会を計画する。アイデアを伝える。) 5: Planning a birthday party (2) (誕生日会に友人らを招待する。) 6: Having a party (誕生日会の会場で初対面の相手同士を紹介したり、話題を提供する。) 7: Intercultural experience (異文化学習-1) 8: Giving & Receiving advice (悩みを相談したり、相手にアドバイスする。) 9: Agreeing & disagreeing (相手の意見に同意したり、反論する。) 10: Talking about preferences (好みについて理由を添えて話す。) 11: Japan Day on campus (1) (留学中に紹介したい日本文化についてリサーチ) 12: Japan Day on campus (2) (留学中に紹介したい日本文化について発表) 13: Intercultural experience (異文化学習-2) 14: Recommendations (2) (休暇中に行って欲しい場所を紹介する。) 15: Review ((後期で学んだ表現の総復習及びロールプレイで発表する。))				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題を1週間前に出すので必ずやっておくこと。授業は課題が完成していることを前提に行う。				
評価方法	授業内評価: 50% (小テスト 30% + 復習テスト 20%) 授業外評価: 宿題・課題 50%				
指導方法	授業中に行う小テストは授業時間中に答え合わせをする。 提出された課題については、教員が確認した後日学生に返却する。				
使用テキスト	授業中にプリントを配布する。				
参考テキスト・URL	授業内で紹介する。				
各自準備物	電子辞書を持参すること。				
実習費					
その他	1. 授業内容についてはクラス毎の震度等により調整する場合がある。 2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。 3. 積極的なGlobal Cafeの利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は担当講師より指示する。				

科目名称	英語コミュニケーションB②		授業コード	20406045	
担当教員	栗原 典子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	1) オンデマンドの場合、OneDrive 内に授業ビデオを入れます。 2) リアルタイムの場合、Zoom を利用して授業を行います。				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	海外生活での具体的な場面を想定した授業で、衣食住の様々な状況で適切な英会話ができるようになる。またその状況の中で必要な情報を得るためだけでなく、円滑なコミュニケーションを通じて、よりよい人間関係を作り上げることができる。さらに相互尊重の視点から、異文化と自国文化を比較できるようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ) この授業では、神戸芸術工科大学2年生が1年間アメリカに留学するという設定で、現地での生活において出会う可能性のある慣用語、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語コミュニケーション能力を高める。留学生活を通して出会うさまざまな人間関係の中で起こりうる場面を想定したトピックを取り上げ、それらの状況に応じた会話表現を使えるようにする。				
授業の概要（内容）	設定された場面で必要となる会話表現を何度も繰り返し発話練習することで、表現の定着を図る。また、自分のことについて様々な内容を話すことができるようになるために、ペアワーク、グループワークを用いて1~2分程度の簡単なプレゼンテーションを毎時授業初めに行う。				
授業計画	1: Orientation (授業の概要、成績評価、授業中の注意点等について説明する。教室英語を学ぶ) 2: Talking about yourself (自己紹介とスモールトークができるようにする。) 3: Scheduling (時間・曜日など日程を表す表現を学び、予定の調整をする。) 4: Planning a birthday party (1) (友人の誕生日会を計画する。アイデアを伝える。) 5: Planning a birthday party (2) (誕生日会に友人らを招待する。) 6: Having a party (誕生日会の会場で初対面の相手同士を紹介したり、話題を提供する。) 7: Intercultural experience (異文化学習-1) 8: Giving & Receiving advice (悩みを相談したり、相手にアドバイスする。) 9: Agreeing & disagreeing (相手の意見に同意したり、反論する。) 10: Talking about preferences (好みについて理由を添えて話す。) 11: Japan Day on campus (1) (留学中に紹介したい日本文化についてリサーチ) 12: Japan Day on campus (2) (留学中に紹介したい日本文化について発表) 13: Intercultural experience (異文化学習-2) 14: Recommendations (2) (休暇中に行って欲しい場所を紹介する。) 15: Review ((後期で学んだ表現の総復習及びロールプレイで発表する。))				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	課題を1週間前に出すので必ずやっておくこと。授業は課題が完成していることを前提に行う。				
評価方法	授業内評価: 50% (小テスト 30% + 復習テスト 20%) 授業外評価: 宿題・課題 50%				
指導方法	授業中に行う小テストは授業時間中に答え合わせをする。 提出された課題については、教員が確認し後日学生に返却する。				
使用テキスト	授業中にプリントを配布する。				
参考テキスト・URL	授業内で紹介する。				
各自準備物	電子辞書を持参すること。				
実習費					
その他	1. 授業内容についてはクラス毎の震度等により調整する場合がある。 2. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なおリアルタイム型授業での遅刻30分以上は欠席扱いとする。 3. 積極的なGlobal Cafeの利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は担当講師より指示する。				

科目名称	英語コミュニケーションB ③④⑥		授業コード	20206045	
担当教員	MACAULEY MYLES				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、Zoom
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学修成果）	海外生活での具体的な場面を想定した授業で、衣食住のさまざまな状況で適切な英会話ができるようになる。またその状況の中で必要な情報を得るためだけでなく、円滑なコミュニケーションを通じて、よりよい人間関係を作り上げることができる。さらに相互尊重の視点から、異文化と自国文化を比較できるようになる。(以上『英語コミュニケーション』全クラスの共通テーマ) この授業では、学生たちは、授業で設定された様々な状況下でのロールプレイ、タスク、シミュレーション、プレゼンテーションを体験し、慣用句、会話独特の言い回しなどを含めた語彙力、表現力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を高める。 学習した役立つ表現と単語をさまざまな場面で自信をもって話せるようにする。
授業の概要（内容）	日常生活の中でさまざまな場面において英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。 この授業では主に話す事と聞き取ることを中心とした活動を行って行く。 実用的な英語コミュニケーションに役立つ表現と単語を身につけて行く。
授業計画	1: Orientation; Getting to know each other 2: Talking about yourself and experiences 3: Talking about modern Japanese culture: manga and anime 4: Shopping for souvenirs 5: Talking about people in your life; families 6: Talking about technology in your life 7: Talking about problems and giving advice 8: Talking about studying abroad: benefits and possible problems 9: Talking about feelings and opinions 10: Talking about special occasions; describing festivals and customs 11: Talking about important events from the past 12: Asking for and giving information 13: Talking about wishes and possibilities 14: Talking about intentions and predictions 15: Review
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業後に学習内容を必ず復習し、語彙・表現を再確認すること。
評価方法	授業内ロールプレイ&スピーキング & 提出物 75% ; 授業内小テスト 25%
指導方法	
使用テキスト	教材は授業でプリントを配布する。
参考テキスト・URL	
各自準備物	辞書または電子辞書を持参すること
実習費	
その他	1. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 2. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。なおリアルタイム型授業での遅刻 30 分以上は欠席扱いとする。 3. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は担当講師より指示する。 5. 「基礎英語 I」の B または C クラスを修了した学生の履修が望ましい。

科目名称	表現のための英語 A ①③⑥		授業コード	10106053	
担当教員	岡村 光浩				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	<p>英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ)</p> <p>このクラスでは、実際に現場で働いている経験者たちの声を聞くことで、英語の受信と発信技能を高めると同時に、自分自身のキャリアデザインを考える機会を持つ。</p>				
授業の概要 (内容)	<p>DVD を観ながらキャリアデザインに関して英語で学べる教材を使用し、各分野のプロフェッショナルの声を直接聞きながら、仕事内容を知ると同時に、各職場で求められている能力や資質、仕事におけるチャレンジとやり甲斐を知る。またグローバル人材として働くための準備の仕方や、大学生として将来必要なキャリア形成についても、英語で学びながら考えていきたい。</p>				
授業計画	<p>1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他)</p> <p>2 : Unit 2: Advertising Sales Agent (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>3 : Unit 2: Advertising Sales Agent (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>4 : Unit 7: Fashion Designer (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>5 : Unit 7: Fashion Designer (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>6 : Unit 11: Interior Designer (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>7 : Unit 11: Interior Designer (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>8 : Unit 12: Video Editor (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>9 : Unit 12: Video Editor (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>10 : Unit 13: Desktop Publishing (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>11 : Unit 13: Desktop Publishing (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>12 : Unit 14: Event Planner (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>13 : Unit 14: Event Planner (2) Comprehension ~ Practice</p> <p>14 : Unit 15: Photographer (1) Vocabulary ~ Viewing</p> <p>15 : Unit 15: Photographer (2) Comprehension ~ Practice</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<p>授業時に担当講師より指示する。テキストの動画は、DVD が付属しているので、事前によく見ておくこと。不確かな文法事項や・語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。</p> <p>なお使用テキストは「リンガポルタ」Web システム {https://goo.gl/RvBW69} に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する。</p>				
評価方法	<p>・ 授業で課される課題の平均点を 100%評価の対象とする。</p> <p>・ Optional の課題がある場合は、加点する。</p> <p>・ 加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。</p> <p>※使用テキストは「リンガポルタ」Web システム {https://goo.gl/RvBW69} に対応しているので、e-learning での得点を平常点に加味する。</p>				
指導方法	<p>提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。</p> <p>「リンガポルタ」のフィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。</p>				
使用テキスト	塩見佳代子ほか『Career Design on DVD』成美堂、2015 年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	<p>・ 英和/和英辞典コンバスターズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館) 等</p> <p>・ PC・タブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft 365 が利用可能な環境)</p>				
実習費					

その他	<ol style="list-style-type: none">1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。3. 欠席は原則4回まで（予備登録期間含む）。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。5. その他詳細は各担当講師より指示する。 <p>※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により学期途中で方針が変更される可能性もある。</p>
-----	--

科目名称	表現のための英語 A ②④			授業コード	10206053
担当教員	小橋 薫				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロフィール				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。（以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ） このクラスでは、ライティングの基礎の学習と時事英語などの動画をもとに、英文エッセイなどによる自己表現力が習得できる。				
授業の概要（内容）	この授業では、テキストに沿って基礎的な英語のライティング知識を学習するとともに、時事英語やプレゼンテーション動画を視聴しながら、国際社会における自己表現の能力の向上を目指す。テキストは必ず購入すること。				
授業計画	1 : 授業方針説明と Self-Introduction 2 : 時事英語やプレゼンテーション動画による英語表現 3 : Conclusion / Reasons 4 : Social Trend 5 : Result / Cause 6 : Comparison 7 : 小テスト+関連動画 による実践 1 9 : For and Against 10 : History 11 : Definition of a New Word 12 : Research 13 : New Products 14 : 小テスト+関連動画 による実践 2 15 : 関連動画 による実践 3 （新型コロナ感染状況によっては変更される可能性もあります。）				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	テキストの予習、復習とともに、授業において紹介された時事英語サイトの視聴など。				
評価方法	小テスト 30% 15 回の授業で課される提出物 70%を 100%評価の対象とする。 （新型コロナ感染状況によっては変更される可能性もあります。）				
指導方法	小テストについては、採点後に返却、提出物はコメントをつけ返却、または口頭で指導する。				
使用テキスト	『構造で書く英文エッセイ』<初級編> 石谷由美子著 南雲堂				
参考テキスト・URL	参考 URL は、適時 KDU ポータルより紹介する。				
各自準備物	テキスト、英和・和英辞典				
実習費					
その他	1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則 4 回まで（予備登録期間含む）。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	表現のための英語 A ⑤		授業コード	20506053	
担当教員	アラル・ケンザ宝				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ) このクラスでは、アートに関連する語彙や表現を中心に学習し、様々なアクティビティを通して実際に使ってみることで、主にアートの場面で自己表現のための英語力の向上を目指す。				
授業の概要 (内容)	テキスト (電子版) を用い、アートに関連する語彙や表現、また基本的な文法を学習し、それらがアートの場面でどのように使用されているかを学ぶ。またテキストを超えた身の回りのアートや海外のアート、関連する動画などを、教員、学生共に持ち寄り、それらのアート作品を用いて様々なアクティビティを行う。学んだ表現を実際に使うことで、これから益々増えるであろう英語での自己表現の機会に備え、英語でのコミュニケーション力の向上を目指す。				
授業計画	1: オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) Lesson 1: Introduce Yourself at the Gallery 2: Lesson 2: At the Ceramic Studio 3: Lesson 3: Found Art/ Assemblage Sculpture 4: Lesson 4: Peter is Painting a Still-Life 5: Lesson 5: Plein-Air Portrait Painter 6: Lesson 6: In the Glass Studio 7: Lesson 7: Figure Drawing Session 8: Lesson 8: John is a Lithographer 9: Lesson 9: Saundra Moved into a New Studio 10: Lesson 10: Tour a Museum 11: Lesson 11: Allison is a Landscape Photographer 12: Lesson 12: Master and Apprentice Metalsmith 13: Lesson 13: Design 101 14: Lesson 16: A Critique 15: Lesson 18: In Remembrance of Professor J.D. Twilliger, Master Painter				
実務経験のある教員	英国、米国、日本での応用言語学及び英語教育法研究の経験を活かし、社会的文脈に即した英語使用能力並びに包括的なコミュニケーション能力の習得を目指す。				
授業時間外学習	毎回テキストやその他関連するアクティビティの課題を出す。 課題の詳細は授業内に説明するので、注意点などしっかり聞いて、課題は必ず毎回行うこと。				
評価方法	以下の項目を対象とし、総合的に評価する。 ・ 授業参加度 (欠席ではありません) ・ 15 回の授業で課される課題 ・ Optional の課題がある場合は、加点する。(加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。)				
指導方法	課題によって採点またはコメントを KDU ポータルに公開、または授業時間内にフィードバックを行う。				
使用テキスト	Rebecca White 著『Spoken English for Artists (English Edition)』Kindle 版、2012 年 URL: https://www.amazon.co.jp/dp/B00A69608C/ 【注意 1】本テキストは kindle 「電子版のみ」の販売のため、Amazon に各自入会の上購入することが必要である。購入に際して、iOS アプリからは購入できないためブラウザからの購入が必要である。また、購入にはクレジットカード利用またはコンビニ等で Amazon				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 4 訂版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	PC もしくはタブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft365 が利用可能な環境)、英和/和英辞典: コンパスローズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館)、電子辞書、辞書アプリ等				
実習費					
その他	1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 欠席は原則 4 回まで (予備登録期間含む)。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 3. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 4. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	表現のための英語 B ①		授業コード	10106033	
担当教員	岡村 光浩				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ) このクラスでは、新形式の TOEIC テストの問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につける。必要に応じ、英語コミュニケーション能力の基礎となる、英単語や英文法の基礎的な知識を確認する。				
授業の概要 (内容)	TOEIC 入門レベル総合テキストの学習を通じて、TOEIC の概略を掴む練習を徹底的に行うと共に、実践的な日常英語を身につける。				
授業計画	1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2 : Unit 1: Restaurants (文法事項: 人称代名詞) 3 : Unit 2: Entertainment (文法事項: 不定代名詞) 4 : Unit 3: Business (文法事項: 再帰代名詞) 5 : Unit 4: Office (文法事項: 現在完了形) 6 : Unit 5: Telephone (文法事項: 動詞 [主語と動詞の一致]) 7 : Unit 6: Letters & E-mails (文法事項: 形容詞) 8 : Unit 7: Health (文法事項: 前置詞 [時・期間]) 9 : Unit 8: The Bank & The Post Office (文法事項: 前置詞 [所属・関連]) 10 : Unit 9: New Products (文法事項: 数量形容詞) 11 : Unit 10: Travel (文法事項: 自動詞と他動詞) 12 : Unit 11: Daily Life (文法事項: 自動詞と他動詞) 13 : Unit 12: Job Applications (文法事項: 比較) 14 : Unit 13: Shopping (文法事項: 受動態) 15 : Unit 14: Education (文法事項: 接続詞 [相関接続詞])				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業時に担当講師より指示する。不確か?法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 なお使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する。				
評価方法	・ 授業で課される課題の平均点を 100%評価の対象とする。 ・ Optional の課題がある場合は、加点する。 ・ 加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、e-learning での得点を平常点に加味する。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リングポルタ」のフィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	吉塚 弘、Graham Skerritt『Best Practice for the TOEIC L&R Test -Basic-』成美堂、2021 年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・ 英和/和英辞典コンパスローズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館) 等 ・ PC・タブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft 365 が利用可能な環境)				
実習費					
その他	1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則 4 回まで (予備登録期間含む)。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 ※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により学期途中で方針が変更される可能性もあるので、担当講師からの連絡には常に注意すること。				

科目名称	表現のための英語 B ②③		授業コード	20206033	
担当教員	小橋 薫				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータルクラスプロフィール				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。（以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ） このクラスでは、日常やビジネスにおける英会話の理解力と、小論文などによる自己表現力を習得する。				
授業の概要（内容）	この授業では、ニューヨークのファッション業界を舞台とする映画を使用し、ビジネスの世界におけるリスニング力・語彙力と、自己表現の能を向上させる。 特に前半 においては、ビジネス場面の語彙の習得、後半においては自己表現力向上の為のエクササイズが課題の中心となる。テキストは必ず購入すること。				
授業計画	1 : 授業方針説明と Self-Introduction 2 : 時事英語やプレゼンテーション動画による英語表現 3 : Andy Meets Miranda 4 : Andy's First Day at Runway 5 : Miranda, the Almighty 6 : Andy's Metamorphosis 7 : Andy Performs a Miracle 8 : 小テスト+ Review 1 9 : Andy's Stock Goes Up 10 : Andy's Dilemma 11 : A Night in Paris 12 : A Plot against Miranda 13 : Andy's Final Choice 14 : 小テスト+Learn English through movies 1 15 : Learn English through movies 2 （新型コロナ感染状況によっては変更される可能性もあります。）				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	テキストの語彙問題の予習、設問の理解、前回の授業までのストーリーに関するスクリプトの読解などを通して、語彙力、表現力の習得を目指すこと。授業において紹介された時事英語サイトなどの視聴。				
評価方法	小テスト 30% 15回の授業で課される提出物 70%を 100%評価の対象とする。 （新型コロナ感染状況によっては変更される可能性もあります。）				
指導方法	小テストについては、採点後に返却、提出物はコメントをつけ返却、または口頭で指導する。				
使用テキスト	映画総合教材『ブラダを着た悪魔』/Aline Brosh McKenna 著 神谷久美子 Kim R.Kanel 編著:松柏社				
参考テキスト・URL	毎回の授業資料で提示します。				
各自準備物	テキスト、英和・和英辞典は必ず持参のこと。				
実習費					
その他	1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席（＝課題の未提出）は原則4回まで（予備登録期間含む） 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。				

科目名称	現代英語 ①②		授業コード	10106231	
担当教員	岡村 光浩				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル及び Microsoft 365 (Teams / Stream / OneDrive)				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	様々な話題を採り上げた記事を読んでいくことを通じて、作品制作や表現活動について英語で見聞きし語るための「引き出し」を増やすことを目指す。				
授業の概要 (内容)	アート&デザインに関する話題を含む時事的な内容を採り上げた教材を通じて、関連する語彙や表現・文法事項を学習すると共に、英語によるコミュニケーション力の向上を図る。				
授業計画	1 : オリエンテーション (授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2 : Lesson 1: Natural vs Artificial: For AI voice assistance (1) Listening 3 : Lesson 1: Natural vs Artificial: For AI voice assistance (2) Reading / Discussion 4 : Lesson 2: Relocating vs Protecting Buildings (1) Listening 5 : Lesson 2: Relocating vs Protecting Buildings (2) Reading / Discussion 6 : Lesson 3: Disease Prevention vs Economic Growth (1) Listening 7 : Lesson 3: Disease Prevention vs Economic Growth (2) Reading / Discussion 8 : Lesson 8: Alternative vs Fossil Energy (1) Listening 9 : Lesson 8: Alternative vs Fossil Energy (2) Reading / Discussion 10 : Lesson 10: Endangered Species vs Diplomacy (1) Listening 11 : Lesson 10: Endangered Species vs Diplomacy (2) Reading / Discussion 12 : Lesson 15: Natural vs Artificial: Rewilding and gardening (1) Listening 13 : Lesson 15: Natural vs Artificial: Rewilding and gardening (2) Reading / Discussion 14 : Lesson 16: Archeology vs Treasure Hunting (1) Listening 15 : Lesson 16: Archeology vs Treasure Hunting (2) Reading / Discussion				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業時に担当講師より指示する。テキストの動画は教科書会社の Web サイトから視聴できるので、事前によく見ておくこと。不確かな文法事項や・語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。なお使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する。				
評価方法	・授業で課される課題の平均点を 100%評価の対象とする。 ・Optional の課題がある場合は、加点する。 ・加点の割合はそれぞれの担当教員より指示する。 ※使用テキストは「リングポルタ」Web システム { https://goo.gl/RvBW69 } に対応しているので、e-learning での得点を平常点に加味する。				
指導方法	提出された課題については、採点またはコメントを授業内で公開する。 「リングポルタ」のフィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認できる。				
使用テキスト	宍戸 真ほか『AFP World News Report 6』成美堂、2022 年				
参考テキスト・URL	『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法 (初級編) 第 4 版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。				
各自準備物	・英和/和英辞典コンパスローズ (研究社)・ウィズダム (三省堂)・ジーニアス (大修館) 等 ・PC・タブレット・スマートフォン (KDU ポータル及び Microsoft 365 が利用可能な環境)				
実習費					
その他	1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則 4 回まで (予備登録期間含む)。 ※課題が未提出の場合は、『欠席』とする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 ※新型コロナウイルス感染症の流行状況等により学期途中で方針が変更される可能性もあるので、担当講師からの連絡には常に注意すること。				

科目名称	フランス語 I ①②③		授業コード	10106062	
担当教員	小宮 美奈				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	<p>授業の目的： フランス語は俗ラテン語から派生したロマンス諸語（イタリア語、スペイン語、ポルトガル語などがある）の一つで、世界中で日本の人口の2倍近くの人々の公用語として話されている。芸術の国フランスの文化は文学のみならず、衣・食・住のあらゆる場面で日本に影響を与えてきた。また、ジャポニズムから現代のポップカルチャーに至るまで、日本文化の理解者がフランス(語圏)に存在することも忘れてはならない。フランス語の学習を通してフランス文化に親しみ、楽しみながら異文化適応力や教養を身につける。</p> <p>到達目標： ①フランス語の音声・文字に親しみフランス語の文の基本構造を理解する。 ②積極的に語彙を増やし実際に自分で文を組み立てたり、発信力をつける。 ③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。(実用フランス語技能検定5級程度)</p>				
授業の概要 (内容)	ストーリーを追いながら基本的なコミュニケーション能力が身につくよう指導する。授業では教科書の筆記問題の答え合わせによりゆっくりわかりやすく文法を説明する(事前学習型授業)。また、聞き取り練習にも取り組む。学期末にはミニレポート(調査学習)あり。				
授業計画	<p>1：導入(身近なフランス語、世界の中のフランス語、発音と綴り字、アクセント記号、アルファベ)</p> <p>2：第1課：紹介(名前の尋ね方・答え方、主語人称代名詞と動詞 ETRE、国籍・職業)</p> <p>3：第1課：紹介(名詞・形容詞の変化、疑問文、挨拶する①出会いの挨拶)</p> <p>4：第2課：待ち合わせ(動詞 AVOIR、不定冠詞と定冠詞)</p> <p>5：第2課：待ち合わせ(物・事の尋ね方、指示形容詞、挨拶する②別れの挨拶)</p> <p>6：第3課：オデオン駅で(-ER 動詞の活用、数詞①60まで)</p> <p>7：第3課：オデオン駅で(否定文、便利な ON、動詞 FAIRE)</p> <p>8：第3課：オデオン駅で(所有形容詞、疑問詞を伴う疑問文、時刻の表現)</p> <p>9：第4課：カルチェ・ラタンで(動詞 ALLER、前置詞 A/DE と定冠詞の結合形)、小テスト</p> <p>10：第4課：カルチェ・ラタンで(動詞 VENIR、動詞の型まとめ)</p> <p>11：第4課：カルチェ・ラタンで(存在の表現、否定の DE)</p> <p>12：第5課：ドバントン通り 25 番地(疑問形容詞、住まいと家具)</p> <p>13：第5課：ドバントン通り 25 番地(直接目的語人称代名詞、数詞②100まで/序数詞)</p> <p>14：第5課：ドバントン通り 25 番地(人称代名詞強勢形、場所の前置詞)ミニレポート</p> <p>15：総括(第1課から第5課まで)、まとめテスト</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<p>テキストの予習(音声を2回以上聴きポーズの間に発音してみる。練習問題を解くこと。)</p> <p>テキストの復習(ディアログもポーズの間に練習をすること。文法事項の確認、練習問題の確認。)</p> <p>詳細は適宜授業内で指示する。</p>				
評価方法	<p>授業への参加度 10%、授業内小テスト 30%、まとめテスト 60%の割合で評価。</p> <p>テストについては授業内で指示する。(聞き取りを実施する場合あり。)</p>				
指導方法	コミュニケーションのためのフランス語を身につけるためのトレーニングや必要最小限の文法解説を行い、「読む」「書く」「聞く」などの基礎を指導する。				
使用テキスト	<p>『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲、Serge GIUNTA, Thierry TROUDE 著 早美出版社(CD付き)</p> <p>教科書の音声ダウンロードは以下の通り。 {https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=34}</p>				
参考テキスト・URL	<p>文法書、辞書については授業内で適宜指示する。</p> <p>会話練習(ロールプレイ)用には教科書ほぼ準拠のDVDあり。 {https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=23}</p>				
各自準備物	PC・スマートフォン環境またはCDプレイヤー 詳細については授業内で適宜指示する。				
実習費					
その他	<p>授業内テストの日程に留意すること。</p> <p>授業計画の項目については多少前後する場合あり。</p> <p>欠席は原則5回まで。</p> <p>Bon courage !</p>				

科目名称	フランス語 I ④⑤		授業コード	10406062	
担当教員	南 コニー				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	zoom
履修制限等	予備登録実施
授業の目的と到達目標 (学修成果)	<p>欧州言語共通参照枠で AI レベル (フランス語検定 3 級) に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ! (音声学、言語のしくみを学ぶ) 実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。 恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧に行うことで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分について相手に伝える! (実践) 会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。 間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる! (内容理解) リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける! (技能) 会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアログ (本文の会話) の後に、アクティビティ (実践会話) を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る! (知識) フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>
授業の概要 (内容)	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランセ』(朝日出版社) という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR 基準に基づき、世界の言語教育の場においては、<母国語+2 言語> 政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。<母国語 (日本語) + 英語+フランス語> を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>
授業計画	<p>1 : Introduction : (オリエンテーション) 授業履修の注意事項、フランス語を学ぶ上でのアドバイス。 テキスト 0 課 Introduction、綴りと発音の関係、アルファベ (pp.1-3)</p> <p>2 : Jem'appelleDenis テキスト 1 課 : Dialogue と Activites I、II、III (自己紹介、国籍)</p> <p>3 : Jem'appelleDenis テキスト 1 課 : ActivitesIV、V と Grammaireetexercices (数字 0-20、動詞 etre)</p> <p>4 : Tuhabitesou? テキスト 2 課 : Dialogue と Activites I、II (職業や住んでいるところ)</p> <p>5 : Tuhabitesou? テキスト 2 課 : ActivitesIII、IV と Grammaireetexercices (数字 21-30、身分)</p> <p>6 : Unpanache,s'ilvousplait テキスト 3 課 : Dialogue と Activites I、II (国籍と否定形)</p> <p>7 : Unpanache,s'ilvousplait テキスト 3 課 : ActivitesIII、IV、V と Grammaireetexercices (名詞の性と数、-er 動詞)</p> <p>8 : 第 6 回~9 回の確認テスト、フランス映画鑑賞</p> <p>9 : Tuasuneaddresseemail? テキスト 4 課 : Dialogue と Activites I、II (身の回りのもの、否定)</p> <p>10 : Tuasuneaddresseemail? テキスト 4 課 : ActivitesIII、IV、V と Grammaireetexercices (動詞 avoir、否定の de、疑問文)</p> <p>11 : C'estqui? テキスト 5 課 : Dialogue と Activites I、II (人物描写、国名)</p> <p>12 : C'estqui? テキスト 5 課 : ActivitesIII と Grammaireetexercices (所有形容詞、疑問詞、形容詞の性と数)</p> <p>13 : Qu'est-ceque'est? テキスト 6 課 : Dialogue と Activites I、II 「これは何ですか?」</p> <p>14 : Qu'est-ceque'est? テキスト 6 課 : ActivitesIII と Grammaireetexercices (定冠詞、Qu'est-ceque...? 前置詞)</p> <p>15 : 総復習、フランス映画鑑賞</p>
実務経験のある教員	

授業時間外学習	フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。 それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。 尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できるのので、復習や自宅学習に活用すること。 http://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html
評価方法	1. 全 15 回の授業のうち 10 回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。 2. 定期試験を行う (100 点満点中 50 点分)。 3. 定期試験と以下の小テストの総合点 (100 点満点中 50 点分) で評価する。 2 課分の小テスト 5 点×3 回=15 点アクティビティでのパフォーマンス 5 点×7 回=35 点 また評価が S と A の人数の割合は、合格者 (つまり評価 C 以上) 全体の 30%程度とする。
指導方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400 円+税
参考テキスト・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	
その他	1. 小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等) 2. 遅刻や欠席がないようにすること 3. 授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止 4. テキスト、辞書、筆記用具を持参すること

科目名称	フランス語Ⅱ ①④		授業コード	10106072	
担当教員	南 コニー				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	Zoom				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	<p>欧州言語共通参照枠で A1 レベル（フランス語検定 3 級）に相当する基本的なフランス語日常会話を行う能力を身につける。</p> <p>1. 正確な発音を学ぶ！（音声学、言語のしくみを学ぶ） 実用的なコミュニケーションで不可欠なものの一つに正確な発音がある。 恥ずかしがらずに声に出して発音練習を丁寧に行うことで、より美しく正確なフランス語が話せるようになる。</p> <p>2. 自分について相手に伝える！（実践） 会話表現の例を参考に自己紹介や趣味について話すことができる。 間違いを恐れずたくさん積極的に話すことで、近い将来の目標や自分の興味についても話すことができるようになる。</p> <p>3. 相手の話した内容を聞きとる！（内容理解） リスニング練習やペアワーク、グループワークを行うことで、相手の話を聞きとる能力を身につけ、内容を理解できるようにする。</p> <p>4. 会話の応用力を身につける！（技能） 会話において大事なものは、「答える力」と「質問力」。ディアログ（本文の会話）の後に、アクティビティ（実践会話）を練習することで、相手の言うことを理解する能力、会話をつなげる質問力を養う。</p> <p>5. フランス文化や社会を知る！（知識） フランスの首都パリは芸術の都と言われ、パリ・コレなどファッション界の最先端をいく国でもある。すでに日本語になっている料理用語やファッション用語の多くはフランス語由来のものが多く、フランス語を学び専攻と関連付けて学ぶことにより、より多角的な学習ができる。</p>				
授業の概要（内容）	<p>この授業はフランス語の基本的な日常会話・コミュニケーションを学ぶ授業であり、実用的なフランス語運用能力の習得を目的としている。この授業で使用するテキストは『カフェ・フランセ』（朝日出版社）という大学生を対象としたテキストで、コミュニケーション・アプローチに基づき、学習者一人ひとりが楽しく授業に参加できるよう設定されている。</p> <p>このクラスでは、自らコミュニケーションを練習する場として、クラスへの積極的な参加が求められる。フランス語は世界で最も美しい言語の一つであり、英語と共に世界の公用語として国連など数多くの国際機関で使用されている。近年、CEFR 基準に基づき、世界の言語教育の場においては、＜母国語+2 言語＞政策がグローバル・スタンダードとなりつつある。＜母国語（日本語）+英語+フランス語＞を習得することにより、自らの教養を深め、世界情勢についての多角的な情報の入手が可能になり、国際人としてより世界に活躍の場を広げられるようになるだろう。</p>				
授業計画	<p>1：第7課 J'adore? a 定冠詞、好き嫌いの程度を言う 2：第7課 J'adore? a 形容詞の性数一致、Ilya 3：第8課 J'aime beaucoup votre tee-shirt! 比較級 4：第9課 Jefaisdufootball! 部分冠詞、中世代名詞 en 5：第9課 Jefaisdufootball! si と non 動詞 prendre, faire 6：第7～9課の復習、フランス映画 7：第10課 Onyva! 動詞 aller, venir, mettre, vouloir 8：第10課、11課 非人称構文、代名動詞 9：第11課、12課 Tum'invites? 目的語人称代名詞 10：第12課 疑問詞、pourquoi, quand 11：第13課 複合過去、半過去 12：第13課、14課 複合過去（2） 13：第14課、15課 Qu'est-ce que tu as fait hier? 主語代名詞 on 14：第15課 Tu vas me manquer! 近接未来、近接過去 15：第15課、10～15課 総復習</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<p>フランス語は綴りと発音の関係が決まっているので、そのパターンを覚える必要がある。それを踏まえた上で、学習した発音の練習を十分にすること。 尚、収録された音声及び映像は以下のサイトにアクセスすることにより自由に利用できる。復習や自宅学習に活用すること。 http://text.asahipress.com/text-web/france/cafe/francais/index.html</p>				

評価方法	<p>1. 全 15 回の授業のうち 10 回以上の授業に出席しなければ単位は認めない。</p> <p>2. 定期試験を行う (100 点満点中 50 点分)。</p> <p>3. 定期試験と以下の小テストの総合点 (100 点満点中 50 点分) で評価する。</p> <p>2 課分の小テスト 5 点×3 回=15 点アクティヴィティでのパフォーマンス 5 点×7 回=35 点 また評価が S と A の人数の割合は、合格者 (つまり評価 C 以上) 全体の 30%程度とする。</p>
指導方法	授業中の小テストは点数をつけてその場で返却し、レポート等はコメント等添削を加えて返却。
使用テキスト	ニコラ・ガイヤール他著、『カフェ・フランセ』、朝日出版社、2400 円+税
参考テキスト・URL	適宜プリント配布
各自準備物	教科書、筆記用具、辞書
実習費	
その他	<p>1. 小テストの内容は授業中に指示する(単語テスト、作文、発音テスト等)</p> <p>2. 遅刻や欠席がないようにすること</p> <p>3. 授業中の私語、飲食、携帯の使用は禁止</p> <p>4. テキスト、辞書、筆記用具を持参すること</p> <p>5. 「フランス語 I」の単位修得が前提</p>

科目名称	フランス語Ⅱ ②③		授業コード	20206072	
担当教員	小宮 美奈				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル他				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	<p>授業の目的： フランス語は俗ラテン語から派生したロマンス諸語（イタリア語、スペイン語、ポルトガル語などがある）の一つで、世界中で日本の人口の2倍近くの人々の公用語として話されている。芸術の国フランスの文化は文学のみならず、衣・食・住のあらゆる場面で日本に影響を与えてきた。また、ジャポニスムから現代のポップカルチャーに至るまで、日本文化の理解者がフランス（語圏）に存在することも忘れてはならない。フランス語の学習を通してフランス文化に親しみ、楽しみながら異文化適応力や教養を身につける。</p> <p>到達目標： ①フランス語の音声・文字に親しみフランス語の文の基本構造を理解する。 ②積極的に語彙を増やし実際に自分で文を組み立てたり、発信力をつける。 ③言葉を通してフランスおよびフランス語圏の文化や価値観を知る。 （実用フランス語技能検定4級程度）</p>				
授業の概要（内容）	ストーリーを追いながら基本的なコミュニケーション能力が身につくように指導する。授業では教科書の筆記問題の答え合わせにより、ゆっくりわかりやすく文法を説明する(事前学習型授業)。また、聴き取り練習にも取り組む。学期末にはミニレポート(調査学習)あり。				
授業計画	<p>1：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（命令形）自己紹介の復習 2：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（数量表現、部分冠詞）よく使う動詞の学習 3：第6課：ドミニク・ギャロパンの家で（食料品、中性代名詞 EN, すずめるなどの表現） 4：第7課：インタビュー（第1部―間接目的語人称代名詞） 5：第7課：インタビュー（第1部―部分冠詞の解説、中性代名詞 Y と EN, 12ヶ月） 6：第7課：インタビュー（第1部―趣味・余暇について、よく使う動詞の活用・表現） 7：第8課：インタビュー（第2部―複合過去形、過去分詞、助動詞 ETRE を用いる自動詞） 8：第8課：インタビュー（第2部―近接過去、国、時の副詞）仏語圏、小テスト 9：第8課：インタビュー（第2部―国名の使い方、励ましなどの表現） 10：第9課：レストランで（命令形と目的語人称代名詞）天候について 11：第9課：レストランで（近接未来、身体/体調について） 12：第9課：レストランで（代名動詞①導入、誘いの表現など） 13：第10課：セラヴィ（代名動詞の解説、代名動詞の命令形）調査学習 14：第10課：セラヴィ（代名動詞の複合過去、依頼の表現とその答え方） 15：総括（題6課から第10課）、まとめテスト</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	<p>テキストの予習（音声を2回以上聴きポーズの間に発音してみる。練習問題を解くこと。） テキストの復習（ディアログもポーズの間に練習すること。文法事項の確認、練習問題の確認。） 詳細は適宜授業内で指示する。</p>				
評価方法	<p>授業への参加度 10%、授業内小テスト 30%、まとめテスト 60%の割合で評価。 テストについては授業内で指示する。</p>				
指導方法	コミュニケーションのためのフランス語を身につけるためのトレーニングや、必要最小限の文法解説を行い、「読む」「書く」「聞く」などの基礎を指導する。				
使用テキスト	『ヌーヴォー・セラヴィ』倉方秀憲、Serge GIUNTA、Thierry TROUDE 著 早美出版社（CD 付き） 音声ダウンロードは以下の通り。 { https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=34 }				
参考テキスト・URL	<p>文法書・辞書については授業内で適宜指示する。 会話練習(ロールプレイ) 用には教科書ほぼ準拠の DVD もあり。 {https://sobi-shuppansha.com/ec/html/products/detail.php?product_id=23}</p>				
各自準備物	<p>PC・スマートフォン環境(特に音声の聞き取りが必ずできるもの) 仏和辞典、和仏辞典 詳細については授業内で適宜指示する。</p>				
実習費					
その他	<p>「フランス語Ⅰ」の単位修得が前提。 テストの日程に留意すること。 授業計画の項目については多少前後する場合あり。 欠席は原則5回まで。 Bonne continuation!</p>				

科目名称	ドイツ語 I ①②③		授業コード	10106281	
担当教員	杉林 周陽				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期／後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、OneDrive が基本だが、場合によっては Teams を使用することもある。				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	ドイツ語の文字と発音、及び文法の基本を理解する。日常会話で用いる挨拶などの表現を身につける。簡単なドイツ語文を作成できるようになる。自己紹介をドイツ語でできるようになる。				
授業の概要（内容）	ドイツ語を始めて学ぶ学生を対象とする。ドイツ語におけるアルファベットの発音と読み方を学び、文章を読んていきながら動詞の人称変化や冠詞の格変化といった基礎的な文法内容を確認していく。この過程においてドイツ語の語感を養い、同時に挨拶などの簡単な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。				
授業計画	1：アルファベットと発音 2：人称代名詞と不定詞・動詞の現在人称変化 3：定動詞の位置・語順 4：sein の現在人称変化 5：名詞の性 6：名詞の格 7：冠詞の変化 8：haben の現在人称変化 9：名詞の複数形、男性弱変化名詞と例外的な名詞 10：人称代名詞の 3 格・4 格 11：不規則動詞の現在人称変化 12：命令形 13：不定冠詞類（所有冠詞・否定冠詞） 14：定冠詞類 15：まとめと授業内テスト				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として音声サイトの音源を聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、文法項目について復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。				
評価方法	最終試験 50%、及び提出課題の内容を 50%として評価する。ただし最終試験の実施が困難である場合には提出課題のみで評価をすることがある。 欠席回数が全体の 1/3 を超える場合には E 評価とする。授業開始より一定時間経過後の出席は出席として認めない。 また提出課題も成績評価に加えるため、未提出回数が増えれば増えるほど、単位の認定が難しくなることは承知しておいてもらいたい。				
指導方法	提出物に関しては、その次の授業の開始時に返却する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。				
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりべ』（朝日出版社）				
参考テキスト・URL	独話辞書				
各自準備物					
実習費					
その他	授業の録音、板書の撮影は著作権の観点から許可しない。 語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦労はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したい。				

科目名称	ドイツ語Ⅱ		授業コード	20006291	
担当教員	杉林 周陽				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル、OneDrive が基本だが、場合によっては Teams を使用することもある。
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照
授業の目的と到達目標（学修成果）	助動詞などを用いる際の文の構造を知る。ドイツ語圏文化の特質を理解する。 日常会話上のより多様な初歩的表現を用い、身の回りの出来事を表現することができる。
授業の概要（内容）	前置詞や助動詞といった文法を確認する。この過程においてドイツ語の語感をさらに磨き、より多くの日常生活に必要な表現を身につけてもらうことも目標とする。これに加えてドイツ語圏の日常や文化にも触れていく。
授業計画	1：ドイツ語Ⅰの復習 2：前置詞の格支配（2格・3格・4格支配） 3：前置詞の格支配（3・4格支配） 4：前置詞と定冠詞の融合形 5：分離動詞 6：非分離動詞 7：完了形 8：話法の助動詞 9：従属接続詞 10：zu 不定詞句 11：再帰代名詞と再帰動詞 12：動詞の三基本形 13：過去形 14：現在完了形 15：まとめと授業内テスト
実務経験のある教員	
授業時間外学習	次の授業で読むことになるドイツ語の文章について、予習として音声サイトの音源を聴き、少なくとも一読はしておくこと。その際、必ず繰り返し「音読」に努めること。 また復習として、授業で読んだ文章の発音、及び単語・文章の意味、特に文法項目についてはしっかりと復習しておくこと。加えて、返却された課題、または小テストについても、必ず間違えていたところを確認すること。
評価方法	最終試験 50%、及び提出課題の内容を 50%として評価する。ただし最終試験の実施が困難である場合には提出課題のみで評価をすることがある。 欠席回数が提全体の 1/3 を超える場合には E 評価とする。授業開始から一定時間経過後の出席は「出席」として認めない。 また提出課題も成績評価に加えるため、未提出回数が増えれば増えるほど、単位の認定が難しくなることは承知しておいてもらいたい。 なお、期限を過ぎた課題提出は一切認めないので注意すること。
指導方法	提出物に関しては、その次の授業までに添削する。その際、疑問・質問が書かれている場合に関しては、それに対する回答も加える。
使用テキスト	中村修ほか『つながるドイツ語みっとりべ』（朝日出版社）
参考テキスト・URL	独話辞書
各自準備物	
実習費	
その他	授業の録音、板書の撮影は著作権の観点から許可しない。 語学力は学習時間に比例して伸びていくものである。そのため積極的な授業参加を望む。 語学学習に苦勞はつきものであるが、できるだけ楽しくドイツ語を学んでいく機会を提供したいと考えている。 「ドイツ語Ⅰ」の単位修得が前提。

科目名称	中国語Ⅰ ①②③		授業コード	10106182	
担当教員	程 遠巍				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期／後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	中国語を“よむ”のに必須であるピンインを正しく発音出来るようにする。 正確で美しい発音が出来るようになる。				
授業の概要（内容）	中国語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。中国語の発音の基礎となるピンインの発音練習から始める。ピンインとは中国語の読みを表すもので日本語の振り仮名に相当するもので、中国語を学習する上では大切なもの。ピンインの学習を約1ヶ月した後に文法事項の説明を始める。テキストは1年間使用し基本的な文法を学ぶ。そのためなるべく「中国語Ⅰ」・「中国語Ⅱ」と通年で履修するのが望ましい。				
授業計画	1：オリエンテーションと第1課 声調と単母音 2：第2課 複母音 3：第3課 子音 4：第4課 鼻母音・r化 5：ピンインの復習 6：第5課 動詞と人称代名詞 7：第6課 名前の尋ね方 8：第7課 動詞述語文と疑問文 9：第8課 助動詞と連動文 10：第5課～第8課の復習及び自己紹介 11：第9課 量詞と動詞「有」 12：第10課 形容詞述語文と助詞「?」 13：課題の発表（レストランで注文する・店で買い物する） 14：総合練習① 14：総合練習② 15：まとめのテストと今学期の学習の振り返り				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業は教科書に沿って進めるので、テキストのCDを聴き、発音の練習をすること。 各課で学習した単語を単語帳などで整理する。				
評価方法	まとめのテスト 40%、提出物 30%、課題の発表 30%				
指導方法	宿題・提出物は提出期間内にチェックし、返却する。				
使用テキスト	わくわくスタディ 実学実用 初級中国語 ライト版 朝日出版社				
参考テキスト・URL					
各自準備物	テキストは必ず購入してください。				
実習費					
その他	予備登録の期間中にも必ず出席する。 5回以上の無断欠席は成績判定の対象としない。				

科目名称	中国語Ⅱ		授業コード	20006192	
担当教員	程 遠巍				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標（学修成果）	中国語を“よむ”のに必須であるピンインを正しく発音出来るようにする。 正確で美しい発音が出来るようになる。				
授業の概要（内容）	中国語を初めて学習する学生を対象としたクラスである。中国語の発音の基礎となるピンインの発音練習から始める。ピンインとは中国語の読みを表すもので日本語の振り仮名に相当するもので、中国語を学習の上では大切なもの。ピンインの学習を約1ヶ月した後に文法事項の説明を始める。テキストは1年間使用し基本的な文法を学ぶ。そのためなるべく「中国語Ⅰ」・「中国語Ⅱ」と通年で履修するのが望ましい。				
授業計画	1：オリエンテーションと第1課 声調と単母音 2：第2課 複母音 3：第3課 子音 4：第4課 鼻母音・r化 5：ピンインの復習 6：第5課 動詞と人称代名詞 7：第6課 名前の尋ね方 8：第7課 動詞述語文と疑問文 9：第8課 助動詞と連動文 10：第5課～第8課の復習及び自己紹介 11：第9課 量詞と動詞「有」 12：第10課 形容詞述語文と助詞「？」 13：課題の発表（レストランで注文する・店で買い物する） 14：総合練習① 14：総合練習② 15：まとめのテストと今学期の学習の振り返り				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	授業は教科書に沿って進めるので、テキストのCDを聴き、発音の練習をすること。 各課で学習した単語を単語帳などで整理する。				
評価方法	まとめのテスト 40%、提出物 30%、課題の発表 30%				
指導方法	宿題・提出物は提出期間内にチェックし、返却する。				
使用テキスト	わくわくスタディ 実学実用 初級中国語 ライト版 朝日出版社				
参考テキスト・URL					
各自準備物	テキストは必ず購入してください。				
実習費					
その他	予備登録の期間中にも必ず出席する。 5回以上の無断欠席は成績判定の対象としない。				

科目名称	ハングル I ①②③		授業コード	10106102	
担当教員	張 京花				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	前期/後期
関連資格	ハングル能力検定試験 5 級				

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施				
授業の目的と到達目標 (学修成果)	韓国の文字であるハングル文字の仕組みを学習し、ハングルの読み・書き、簡単な日常会話を駆使できるようになる。				
授業の概要 (内容)	日本語の構造と非常に似ている韓国語の基本文型の反復練習を通して、初級の段階から「韓国語で話す」ことに慣れることを目指す。また、韓国人の生活習慣など社会・文化などにわたる韓国事情の紹介も行う。				
授業計画	<p>進度によって多少変更する場合があります。</p> <p>1：イントロダクション：「韓国語」とは</p> <p>2：第1課：文字編、母音 (1)、基本母音</p> <p>3：第1課：文字編、子音 (1)、鼻音、流音、平音</p> <p>4：第2課：文字編、母音 (2)、二重母音</p> <p>5：第2課：文字編、子音 (2)、激音、濃音</p> <p>6：第3課：文字編、終声と代表音</p> <p>7：第3課：文字編、発音のルール</p> <p>8：ここまでのまとめと復習</p> <p>9：第4課：「私はカリンです」その1</p> <p>10：第4課：「私はカリンです」その2</p> <p>11：第5課：「ネコが家にいます」その1</p> <p>12：第5課：「ネコが家にいます」その2</p> <p>13：第6課：「ここが学校ですか」その1</p> <p>14：第6課：「ここが学校ですか」その2</p> <p>15：前期学習内容のまとめ、(期末)小テスト</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	補充ウェブ教材で学習すること。				
評価方法	平常点 (授業態度・授業参加度・宿題・課題) 50%、期末課題 50%				
指導方法					
使用テキスト	『WE CAN 韓国語－入門から初級へ－』金世徳・張京花 博英出版社 (HAKUEISHA)				
参考テキスト・URL					
各自準備物					
実習費					
その他	成績評価は、講義に出された課題、期末課題などを中心に評価しております。課題の提出時点、課題の出来具合、正誤、取り組み具合など、総合的に評価しますので、必ず、課題を提出してください。				

科目名称	ハングルⅡ		授業コード	20006112	
担当教員	張 京花				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	外国語/コミュニケーション
年次	2	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格	ハングル能力検定試験 5 級				

対面・遠隔の別	対面授業				
遠隔の場合の主なツール	1. KDU ポータル				
履修制限等	予備登録実施、「その他」参照				
授業の目的と到達目標（学修成果）	「ハングルⅠ」に続き、簡単な作文と日常会話ができるようになる。				
授業の概要（内容）	日本語との文法的比較を通じて、韓国語との相違点を理解し、作文能力のレベルアップや韓国の文化・社会・生活・価値観を知り、理解することを目指します。韓国のドラマ・歌・映画などを取り入れ、生き生きした韓国語が体験できるようにします。ハングルⅠを受講した学生を対象にします。				
授業計画	<p>進度によって多少変更する場合があります。</p> <p>1：第1回前期学習内容の復習</p> <p>2：第7課：「コンピューターを習います」その1</p> <p>3：第7課：「コンピューターを習います」その2</p> <p>4：第8課：「文化体験授業は何月何日ですか」その1</p> <p>5：第8課：「文化体験授業は何月何日ですか」その2</p> <p>6：第9課：「まっすぐに行ってください」その1</p> <p>7：第9課：「まっすぐに行ってください」その2</p> <p>8：ここまでのまとめと復習</p> <p>9：第10課：「夜、韓国語を勉強します」その1</p> <p>10：第10課：「夜、韓国語を勉強します」その2</p> <p>11：第11課：「水泳は午前10時にあります」その1</p> <p>12：第11課：「水泳は午前10時にあります」その2</p> <p>13：第12課：「普通、週末に外出はしません」その1</p> <p>14：第12課：「普通、週末に外出はしません」その2</p> <p>15：後期学習内容のまとめ、(期末課題)</p>				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	補充ウェブ教材で学習すること。				
評価方法	平常点（授業態度・授業参加度・宿題・課題）50%、期末課題 50%				
指導方法					
使用テキスト	『WE CAN 韓国語－入門から初級へ－』金世徳・張京花 博英出版社（HAKUEISHA）				
参考テキスト・URL					
各自準備物					
実習費					
その他	成績評価は、講義に出された課題、期末課題などを中心に評価しております。課題の提出時点、課題の出来具合、正誤、取り組み具合など、総合的に評価しますので、必ず、課題を提出してください。				

科目名称	日本語初級 I ①	授業コード	10106141
担当教員	鷲見 まゆみ		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
関連資格		科目分類	外国語／コミュニケーション
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	対面・遠隔（オンデマンド）（コロナの状況によって変更あり）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	留学生限定
授業の目的と到達目標（学修成果）	文法・語彙・漢字を学び、実際の場面で正しい日本語が実際に使えるようになる。
授業の概要（内容）	日本での生活、大学生生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つ上級日本語能力を習得することを目標とする。授業では、日本語のN1～N2レベルの文法・語彙・読解・希望に応じて漢字の練習を行う。学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>1：オリエンテーション・実力テスト</p> <p>2：会話「お金が足りない」語彙・漢字</p> <p>3：聴解「今、いないんですけどー伝言ー」文法</p> <p>4：会話「カラオケボックス」語彙・漢字</p> <p>5：聴解「一緒に行ってみない？ー勧誘ー」文法</p> <p>6：会話「休みの日に」語彙・漢字</p> <p>7：聴解「これ、使わせてもらってもいいかなってー許可ー」文法</p> <p>8：会話「勘違い」語彙・漢字</p> <p>9：聴解「渋滞しているらしいですよー確かな情報・不確かな情報ー」文法</p> <p>10：会話「旅行」語彙・漢字</p> <p>11：聴解「そこをなんとかー依頼・指示ー」文法</p> <p>12：会話「ルームメイトと」語彙・漢字</p> <p>13：聴解「予約しておいたはずなんですけどー文句ー」文法</p> <p>14：会話「友達の友達を紹介する」語彙・漢字</p> <p>15：聴解「中華のほうがいいんじゃないー提案ー」文法</p>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	わからないことばや漢字の読み方を調べておくこと。
評価方法	課題提出 70% 小テスト 30% 課題提出には、授業の発表・授業の参加度・宿題も含む
指導方法	提出された課題などは添削し、詳細なコメントをつけて返却する。
使用テキスト	プリントを配布
参考テキスト・URL	『日本語総まとめN1漢字』『日本語総まとめN2漢字』（アスク） 『日本語総まとめN1語彙』『日本語総まとめN2語彙』（アスク） 『こんなときどう使う日本語表現文型』（アルク） 『新完全マスター文法N1』『新完全マスター文法N2』（スリーエーネットワーク） 『ロールプレイで学ぶ中級から上級話者への日本語会話（アルク）』 『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中上級』（スリーエーネットワーク）他 生教材
各自準備物	日本語の辞書 *初回の実力テストは具体的な学習の参考として行う。
実習費	
その他	全授業数の2/3以上の出席で評価の対象とする。

科目名称	日本語初級 I ②③	授業コード	10206141
担当教員	小松 麻美		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
関連資格		科目分類	外国語／コミュニケーション
		開講学期	前期

対面・遠隔の別	対面授業 ※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。
遠隔の場合の主なツール	※遠隔授業になった場合には、必要に応じて担当教員からツール（Teams や Zoom 等）を指定する。
履修制限等	留学生限定
授業の目的と到達目標（学修成果）	文法・語彙・漢字を学び、実際の場面で正しい日本語が使えるようになる。
授業の概要（内容）	日本での生活、大学生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つ上級日本語能力を習得することを目標とする。授業では、日本語の日常で頻繁に遭遇する会話のロールプレイ、会話練習、グループワーク等を行う。学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。
授業計画	1：オリエンテーション・実力テスト 2：会話「自分を印象づける自己紹介」 3：文法・語彙・漢字練習① 4：会話「経緯をわかりやすく説明する」 5：文法・語彙・漢字練習② 6：会話「詳しく物の描写をする」 7：文法・語彙・漢字練習③ 8：会話「話の構成を考えて話す」 9：文法・語彙・漢字練習④ 10：会話「動作の順序を説明する」 11：文法・語彙・漢字練習⑤ 12：会話「ことばを言い換えて話す」 13：文法・語彙・漢字練習⑥ 14：会話「比較しながら説明する」 15：文法・語彙・漢字練習⑦
実務経験のある教員	
授業時間外学習	わからないことばや漢字の読み方を調べておくこと。
評価方法	課題提出 70%、小テスト 30%。6 回以上の欠席は E 評価とする。
指導方法	提出された課題などは添削し、コメントをつけて返却する。
使用テキスト	・『日本語上級話者への道：きちんと伝える技術と表現』萩原稚佳子・増田眞佐子・齋藤眞理子・伊藤とく子、スリーエーネットワーク、2005 ・プリント配布
参考テキスト・URL	『日本語総合まとめ N1 漢字』『日本語総合まとめ N2』（アスク） 『日本語総合まとめ N1 語彙』『日本語総合まとめ N2』（アスク） 『こんなときどう使う日本語表現文型』（アルク） 『新完全マスター文法 N1』『新完全マスター文法 N2』（スリーエーネットワーク）他
各自準備物	日本語の辞書
実習費	
その他	・初回の実力テストは具体的な学習の参考として使う。 ・上記授業内容はクラスの進度に合わせて変更する可能性がある。

科目名称	日本語初級Ⅱ	授業コード	20006151
担当教員	鷲見 まゆみ		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
科目分類		開講学期	後期
関連資格			

対面・遠隔の別	対面・遠隔オンデマンド（コロナの状況により変更あり）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	留学生限定
授業の目的と到達目標（学修成果）	高度な文法・語彙・漢字も学び、実際の場面で正しい日本語が実際に使えるようになる。
授業の概要（内容）	日本での生活、大学生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つ上級日本語能力を習得することを目標とする。授業ではN1レベルの語彙・文法が自由に使えるような練習、読解練習、日本語能力試験等の対策も実施する。
授業計画	1：オリエンテーション・実力テスト 2：会話「自己紹介で好印象を与えよう」、文法 3：聴解 ドラマ、語彙・漢字 4：会話「きっかけを語ろう」文法 5：聴解 ニュース、語彙・漢字 6：会話「なくした体験を語ろう」、文法 7：聴解 ドキュメント、語彙・漢字 8：会話「町の様子を話そう」、文法 9：聴解 漫画、語彙・漢字 10：会話「言いかえて説明しよう」、文法 11：聴解 ドラマ、語彙・漢字 12：会話「比べて良さを語ろう」、文法 13：聴解 ニュース、語彙・漢字 14：会話「ストーリーを語ろう」、文法 15：聴解 ドキュメント語彙・漢字
実務経験のある教員	
授業時間外学習	わからないことばの意味や漢字の読み方を調べておくこと。
評価方法	課題提出 70% 小テスト 30% 課題提出には、授業の発表・授業の参加度・宿題も含む
指導方法	提出された課題などは添削し、コメントをつけ、口頭で説明して返却する。
使用テキスト	プリントを配布
参考テキスト・URL	『日本語総まとめN1 漢字（英語・中国語・韓国語版）』（アスク） 『日本語総まとめN1 語彙（英語・中国語・韓国語版）』（アスク） 『こんなときどう使う日本語表現文型』（アルク）他 『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（アルク） 『日本語上級話者への道』（スリーエーネットワーク）他
各自準備物	日本語の辞書 *初回の実力テストは具体的な学習の参考として行う。
実習費	
その他	全授業数の2/3以上の出席で評価の対象とする。

科目名称	日本語中級 I	授業コード	10006161
担当教員	鷲見 まゆみ		
単位数	1	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2022
科目分類	外国語／コミュニケーション	開講学期	前期
関連資格			

対面・遠隔の別	対面・遠隔（オンデマンド）（コロナの状況によって変更あり）
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル
履修制限等	留学生限定
授業の目的と到達目標（学修成果）	日本での生活、大学生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つ上級日本語能力を習得する。
授業の概要（内容）	授業では、新聞・雑誌等、日本社会に関する文章を読み、意味を理解し、新しい文法・語彙等を学んだ上で、内容に対しての自分の意見や感想をまとめる。学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。
授業計画	1：オリエンテーション・実力テスト 2：読解①（新聞・雑誌・小説など） 3：作文①「助詞の使い方の使い分け」 4：読解②（新聞・雑誌・小説など） 5：作文②「言葉の形の使い分け」 6：読解③（新聞・雑誌・小説など） 7：作文③「自動詞・他動詞・受身」 8：読解④（新聞・雑誌・小説など） 9：作文④「呼応」 10：読解⑤（新聞・雑誌・小説など） 11：作文⑤「文末表現の調整」 12：読解⑥（新聞・雑誌・小説など） 13：作文⑥「ひらがなと漢字のバランス」 14：読解⑦（新聞・雑誌・小説など） 15：作文⑦「漢字の選択と誤変換」
実務経験のある教員	
授業時間外学習	漢字の読み方、わからないことばの意味を調べておくこと。
評価方法	課題提出 70% 小テスト 30% 課題提出には、授業の発表・授業の参加度・宿題も含む
指導方法	提出された課題などは添削し、コメントを詳細につける。
使用テキスト	プリントを配布
参考テキスト・URL	『こんなときどう使う日本語表現文型』（アルク） 『新完全マスター文法日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク） 『日本語総まとめN1漢字』（アスク） 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』（スリーエーネットワーク） 『合格できる日本語能力試験N1』（アルク）他
各自準備物	日本語の辞書 *初回の実力テストは具体的な学習の参考として行う。
実習費	
その他	全授業数の2/3以上の出席で評価の対象とする。

科目名称	日本語中級Ⅱ	授業コード	20006171		
担当教員	鷲見 まゆみ				
単位数	1	授業形態	講義	科目分類	外国語／コミュニケーション
年次	1	開講年度	2022	開講学期	後期
関連資格					

対面・遠隔の別	対面・遠隔（オンデマンド）（コロナの状況によって変更あり）				
遠隔の場合の主なツール	KDU ポータル				
履修制限等	留学生限定				
授業の目的と到達目標（学修成果）	ビジネス日本語も並行して学んでいき、仕事の場で使える日本語を身に付ける。				
授業の概要（内容）	日本での生活、大学生生活での勉強、将来の仕事に実際に役立つ上級日本語能力を習得する。授業では、日本語の生教材の読解練習、内容について自分の意見をまとめる練習、又、新聞・雑誌等、日本社会に関する文章を読み、内容に対しての自分の意見や感想を述べる。学生の希望によって、日本語能力試験等の対策も実施する。				
授業計画	1：オリエンテーション・実力テスト 2：作文①ビジネス日本語① 3：読解① 4：作文②ビジネス日本語② 5：読解② 6：作文③ビジネス日本語③ 7：読解③ 8：読解④ 9：作文④ビジネス日本語④ 10：読解⑤ 11：作文⑤ビジネス日本語⑤ 12：読解⑥ 13：作文⑥ビジネス日本語⑥ 14：読解⑦ 15：作文⑦ビジネス日本語⑦				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	漢字の読み方、わからないことばの意味を調べておくこと。				
評価方法	課題提出 70% 小テスト 30% 課題提出には、授業の発表・授業の参加度・宿題も含む				
指導方法	提出された課題などは添削し、コメントをつけて返却する。				
使用テキスト	プリントを配布				
参考テキスト・URL	『新完全マスター読解日本語能力試験N1』（スリーエーネットワーク） 『日本語総まとめN1漢字（英語・中国語・韓国語版）』（アスク） 『合格できる日本語能力試験N1』（アルク） 『日本語能力予想試験問題集N1』（国書刊行会） 『にほんで働く！ビジネス日本語 30時間』（スリーエーネットワーク）他				
各自準備物	日本語の辞書 *初回の実力テストは具体的な学習の参考として行う。				
実習費					
その他	全授業数の2／3以上の出席で評価の対象とする。				